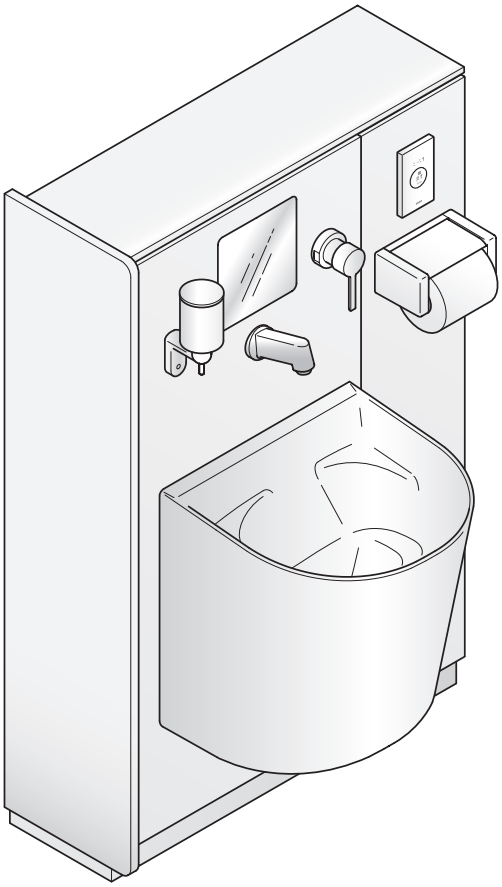
TOTO

施工説明書

オストメイト対応トイレパック

製品の機能が十分発揮できるように、この施工説明書の内容にそって正しく取り付けてください。
取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。本書に記載の寸法の単位はmmです。



情報編 3

1. 安全上のご注意 4
2. 取り付け前のご注意 6
3. 部品の確認 15

手順編 19

工事店様へ

□取扱説明書の最終ページの保証書に必要事項を記入し、必ずお客様にお渡しください。
また、使用方法も説明してください。
手渡しできない場合は、工事完了後目立つ場所に置いてください。

情報編

1. 安全上のご注意 ▶4

2. 取り付け前のご注意 ▶6

1 全体構成 6

2 全体寸法 7

3 必要工具・部材 8

4 取付下地の確認、固定材の準備 9

5 配管、電源・コンセントの準備 10

3. 部品の確認 ▶15

1.安全上のご注意

安全のために必ずお守りください。

お取り付け前にこの「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取り付けてください。
ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容となりますので、必ずお守りください。

●表示と意味はつぎのようになっています。

⚠警告	誤った取り扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	誤った取り扱いをすると、「人が傷害を負う可能性および物的損害※の発生が想定される」内容です。

●お守りいただく内容を絵表示で区分し、説明しています。

🛇	してはいけない「禁止」の内容です。
❗	必ず実行していただく「強制」の内容です。

※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

⚠警告

分解禁止

修理技術者以外の人は絶対に分解したり、修理・改造は行わない
火災や感電の原因となります。

アース接続

アース（D種接地）工事がされていることを確認する
アース工事がされていないと故障や漏電のとき、感電する原因となります。アース工事は、お近くの工事店に依頼してください。

濡れ手禁止

ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となります。

水場使用禁止

浴室など水がかかったり湿気の多い場所には設置しない
火災や感電の原因となります。商品本体・ねじ類の腐食により、落下してけがやときに死亡の原因となります。

分解禁止

この説明書に記載された項目以外は分解・改造しない
破損してやけど・けがをしたり、水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

禁止

指定する電源（交流100V）以外では使用しない
火災の原因となります。

ガタついているコンセントは使わない
火災や感電の原因となります。

電源プラグやコードが傷んだりコンセントの差し込みがゆるいままで使用しない
火災や感電の原因となります。

電源コード・電源プラグが破損するようなことをしない
傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたり、挟み込んだり、加熱したりしない
傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない
たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

雷が発生しているときは、電源プラグに触れない
感電の原因となります。

通電時は電源線、および電源端子台には絶対に触れない
感電の原因となります。

洗浄ボタンや電源プラグ・配線部および端子台・スイッチやコンセント部などの電気製品に水をかけたり、ぬれた手でさわらない
感電の原因となります。

屋外および傾斜のあるような壁面、振動の激しい場所に取り付けない
取り付けが不安定になり、倒れたり落下してけがやときに死亡の原因となります。

湯水を逆に配管しない
水を出そうとした際に湯が出てやけどの原因になります。

指定以外の商品と組み合わせて施工しない
商品の破損、落下による、けがの原因となります。

必ず守る

工事完了後、商品の傾きやがたつきがないか確認する
商品が落下したり、外れたりしてけがやときに死亡の原因となります。水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む
火災や感電の原因となります。

電源プラグを抜くときは、必ずプラグ本体を持って引き抜く
コードを引っ張るとプラグやコードが傷んで、火災や感電の原因となります。

電気関連部品の保守点検を行う場合は、必ず充電源（分電盤ブレーカーもしくは、コンセントを抜く）を切って作業を行う
感電の原因となります。

⚠警告

必ず守る

コンセント位置・電源コードの取り回しは、本説明書に記載された位置・方法・注意事項を厳守する
結露水などにより、コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。

アンカーやプラグなどの下穴は指定径のドリルで所定の深さであけ、ダストポンプを使用して、必ず穴の中の切粉を除去する
固定強度不足のため、けがをするおそれがあります。

商品の取り付け・加工は、本説明書に記載された方法・注意事項を厳守する。
商品が破損・落下し、けがのおそれがあります。
水漏れにより、感電、または、建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

壁への設置は下地に合った固定を確実に行う
固定強度不足のためけがをするおそれがあります。

取付部には所定の下地を設ける
強度不足のため、けがのおそれがあります。

機器の設置は専門業者が行う
また、電気工事は関連する法令・法規に従って有資格者（電気工事士）が行う
火災や感電の原因となります。水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。商品の破損や落下によりけがをするおそれがあります。

＜電気温水器なし仕様の場合＞
必ず同梱のサーモスタットを取り付ける
熱湯をシングルレバーに直接接続しない
水栓から熱湯が出て、やけどの原因になります。

⚠注意

禁止

止水栓を開けたままで給水フィルターをはずさない
水が噴き出し、建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

商品に強い力や衝撃を与えない
商品の破損や落下によりけがをするおそれがあります。水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

排水パッキンの取り付けにはグリスを使用しない
劣化して水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

パッキンを傷つけたり異常な変形をさせない
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

陶器取付用のねじをきつく締めすぎない
陶器が割れ、けがをするおそれがあります。

甲板や各器具の上に乗ったり、重いものを乗せない
故障やけがの原因になります。

給水ホースが破損するようなことをしない
傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたり、挟み込んだり、加熱したりしない
給水ホースが破損し、水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

必ず守る

給水フィルター・給水フィルター付水抜栓を取り付けるときは接続部やフィルターふたを確実に締める
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

設置工事に使用する部材は必ず付属部品および指定部品を使用する
取り付けが不安定になり、使用中に落下してけがの原因となります。水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

工事完了後、給排水管から水漏れがないか確認する
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

給水・排水接続は、本説明書に記載された方法・注意事項を遵守する
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

作業時手袋、防じんマスクなど適切な防護具を使用する
予期せずけがをするおそれがあります。

凍結のおそれがある場合は、必ず凍結予防のため保温処理（保温材巻、電気ヒーターなど）を行う
凍結すると器具の一部が破損し、水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

汚物流しの持ち運びや取り付けは必ず2人以上で行う
腰を痛めたり、けがをするおそれがあります。

ジャバラを無理に曲げないように設置する
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

カットした面は滑らかに仕上げる
滑らかに仕上げないとお客様の手が触れ、けがをする原因となります

商品の壁への固定が完了するまで、もたれたりものを載せたりしないよう十分注意する
商品が倒れたり落下してけがの原因となります。

各器具の補修を行う場合は、水漏れ防止のため必ず元バルブを締めて作業を行う
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

2.取り付け前のご注意

取り付け前の確認

❶ 本商品はいくつかの仕様の組み合わせがあるため必ず、施工される製品仕様を事前にそれぞれ確認すること。
※特に①～③の項目に関しては、事前準備･施工手順などが変わってきますので、仕様を間違えないように注意してください。
（④の仕様違いでは事前準備･施工手順は変わりません。）

【製品仕様】
①セットタンク使用水質:『水道水仕様』もしくは『再生水仕様』
②左右タイプ:『R タイプ（汚物流し右寄せ）』もしくは『L タイプ（汚物流し左寄せ）』
※次ページの図面を確認してください。
③電気温水器:『電気温水器なし』もしくは『電気温水器あり（おまかせ節電あり）』もしくは『電気温水器あり（おまかせ節電なし）』
④陶器･紙巻器の色:『#SC1 パステルアイボリー』もしくは『#NW1 ホワイト』

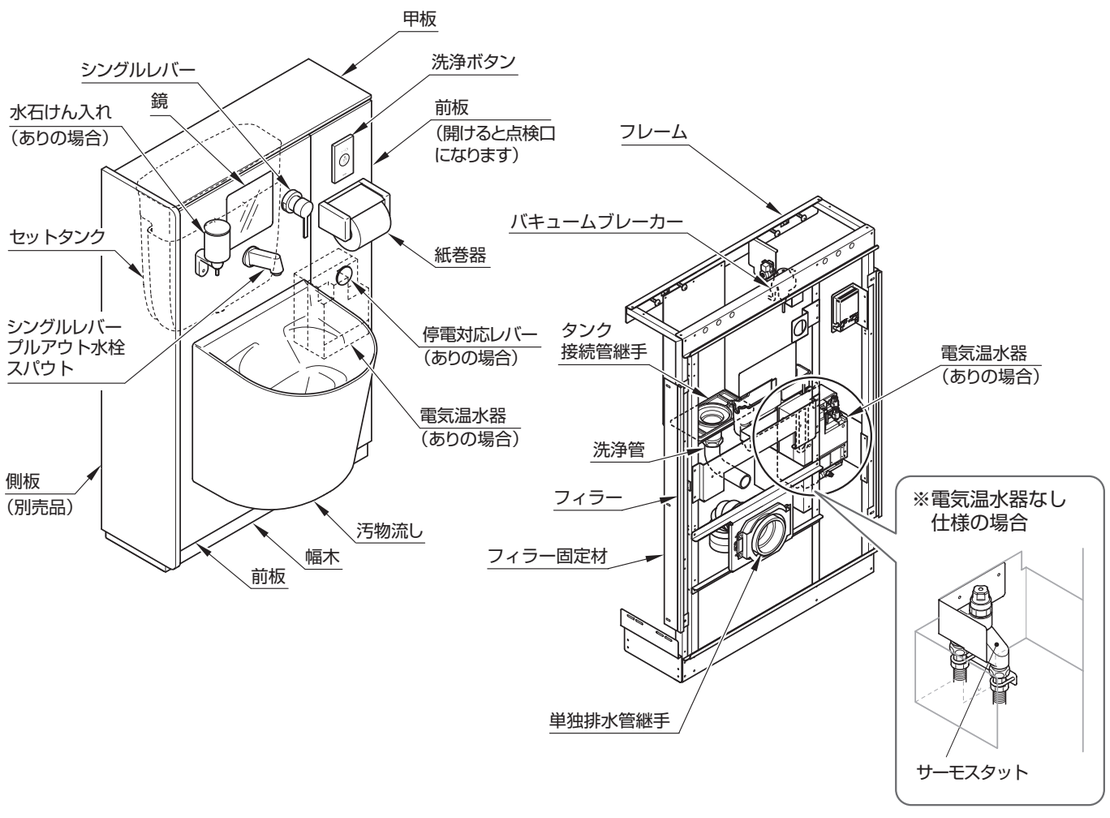
❷ 本商品および、本商品に取り付ける器具の商品図･事前施工情報を必ず確認し、取付位置や取付下地など施工条件を事前に確認にする。
※特に、床･壁の傾き、倒れがないことや、配管の立ち上げ位置を確認してください。

❸ 不具合があった場合は責任者の方と調整し、不具合を解消後に取り付ける。

❹ 電気温水器あり仕様の場合は、電気温水器に同梱の施工説明書も参照。

❺ 本施工説明書では、注記なき場合はLタイプの場合を記載。Rタイプの場合も本施工説明書に準じて施工すること。

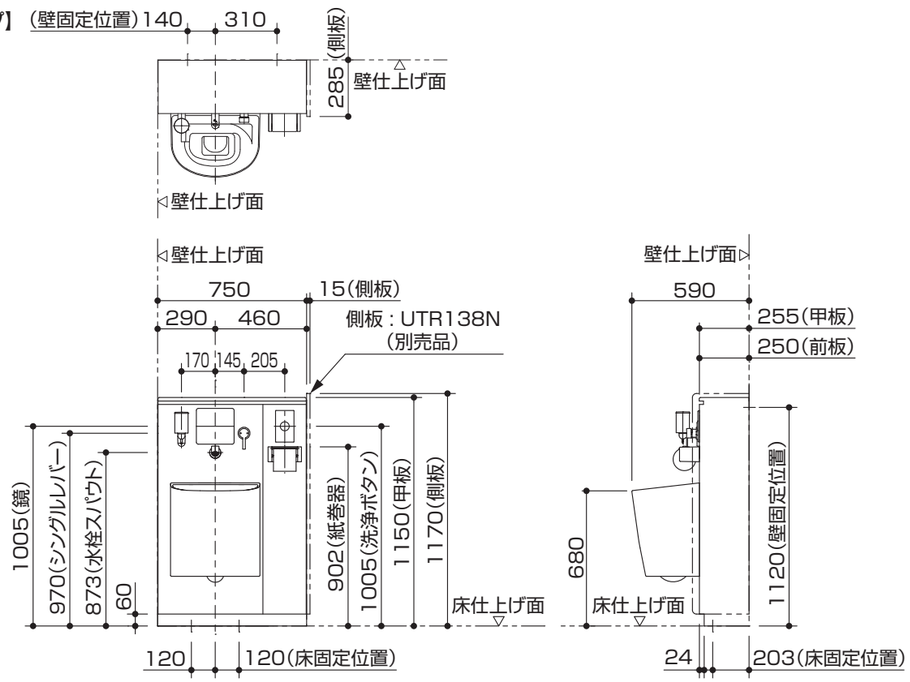
1 全体構成



2 全体寸法

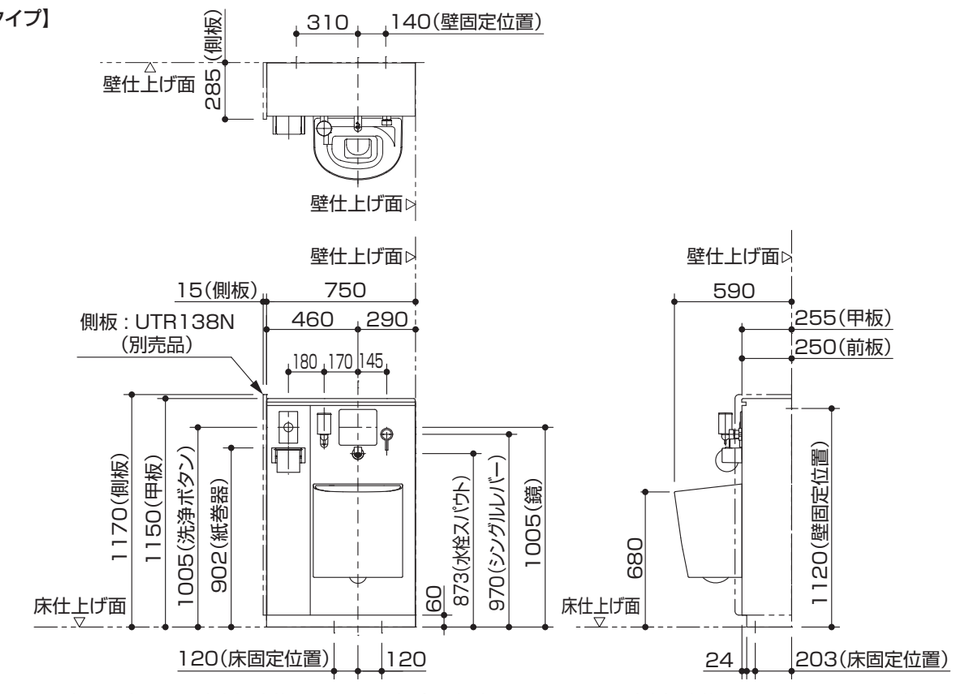
※P6の製品仕様①、③、④の仕様違いでは、外観に違いはありません。

【Lタイプ】



※本図は向かって右側に側板を設置した場合の想定をしています。左側に側板を設置することも可能です。
※側板を設置する場合、壁とのすき間が100mm程度必要です。

【Rタイプ】



※本図は向かって左側に側板を設置した場合の想定をしています。右側に側板を設置することも可能です。
※側板を設置する場合、壁とのすき間が100mm程度必要です。

3 必要工具・部材

※一般水道工事に使う工具以外に、下記の工具･部材を用意してください。

振動ドリル

コンクリート用ドリル:φ8

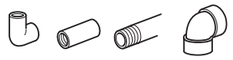
ダストポンプ

ソケットレンチ
メガネレンチ

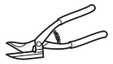
六角棒レンチ
サイズ:対辺(2.5mm、3mm)

電動ドライバー
ビットサイズ:#2、#3
250mm以上のロングビット

金やすり

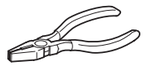

配管･継手類※ ※商品図･配管図面を参照し、必要な配管･継手類を準備してください。

水準器
(磁石付)


金切りばさみ
切断能力…ステンレス板0.8mm

シリコーン系シール剤

ドライバー
#2(65mm･200mm)


ペンチ

脱脂用アルコール

ウェス

えんぴつ

ジグソー
(甲板カット用)
刃は新建材用または木工用超硬刃

レーザー墨出器

MEMO

4 取付下地の確認、固定材の準備

取付下地などに不具合があった場合は責任者の方と調整し、解消後に取り付けてください。

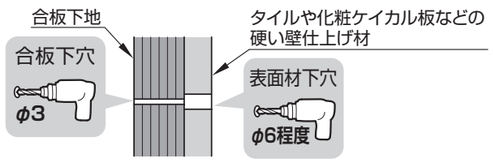
■壁固定

壁下地	壁固定材		
コンクリート (仕上げ材の厚み10mm以内)	樹脂プラグ (下穴φ8 深さ:仕上げ厚+55mm以上)		フレームに同梱
鋼製下地+耐水合板t12以上	トラスタッピンねじφ5×50		フレームに同梱

■床固定

床下地	床固定材		
コンクリート (仕上げ材の厚み10mm以内)	樹脂プラグ (下穴φ8 深さ:仕上げ厚+55mm以上)		フレームに同梱

※上記以外の下地の場合、別途現場で固定部材を用意してください。



ポイント

【表面が硬い仕上げ材の場合】

仕上げ材だけに固定ねじの径よりも大きい下穴(φ6程度)をあける

ねじ固定時に仕上げ材が破損するのを防ぎます。

MEMO

5 配管、電源・コンセントの準備

商品図、以下に記載する事前施工情報などを参照して、配管工事、電気工事を行ってください。

給排水配管、電源･コンセントを所定の位置に取り出し、設置する。

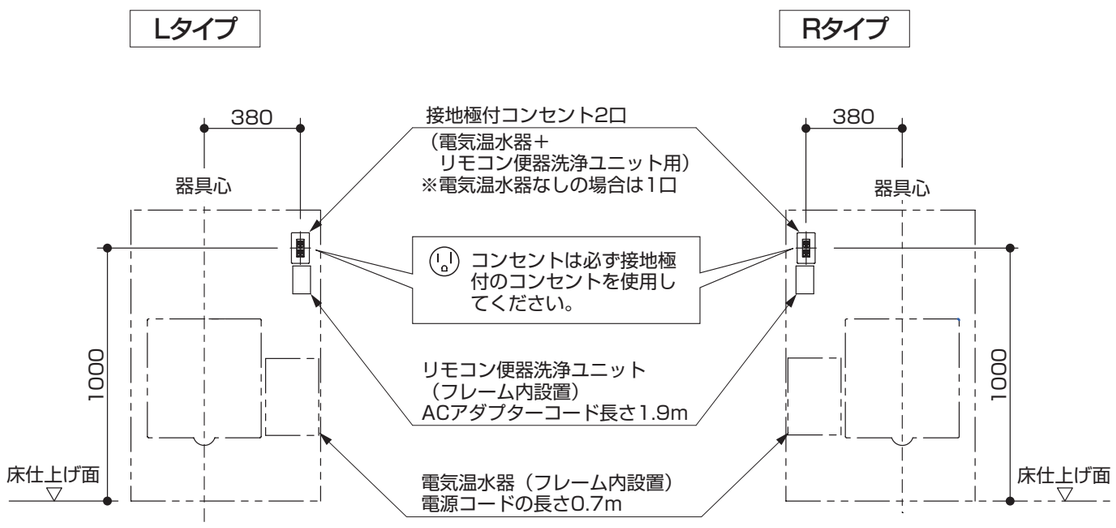
チェック

- **正しい位置に設置されていることを商品図・事前施工情報を参照して確認する**
- **電気工事は関連する安全法規に従って有資格者が行う**

■事前施工情報　電気工事

各器具の消費電力を確認の上、以下の電気工事を行ってください。
コンセント、電気配線部材は商品に含まれておりません。別途現場にて用意してください。

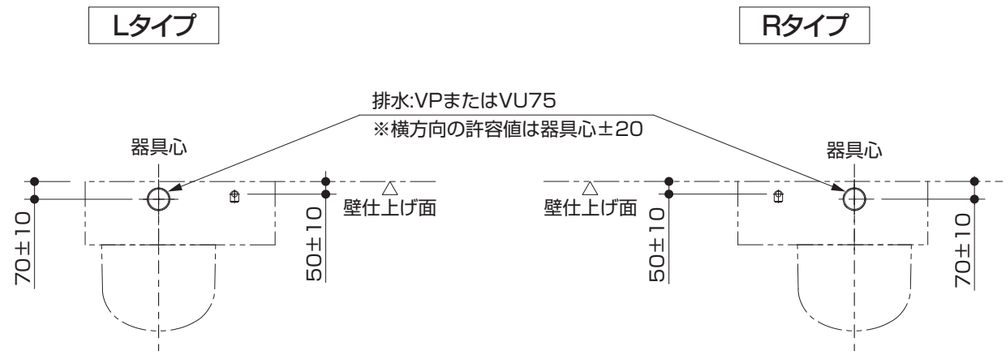
●リモコン便器洗浄ユニット用コンセント
AC100V 50/60Hz
定格消費電力:常時1W、駆動時30W以下
●電気温水器用コンセント（電気温水器あり仕様の場合のみ必要）
AC100V 50/60Hz 定格消費電力:600W

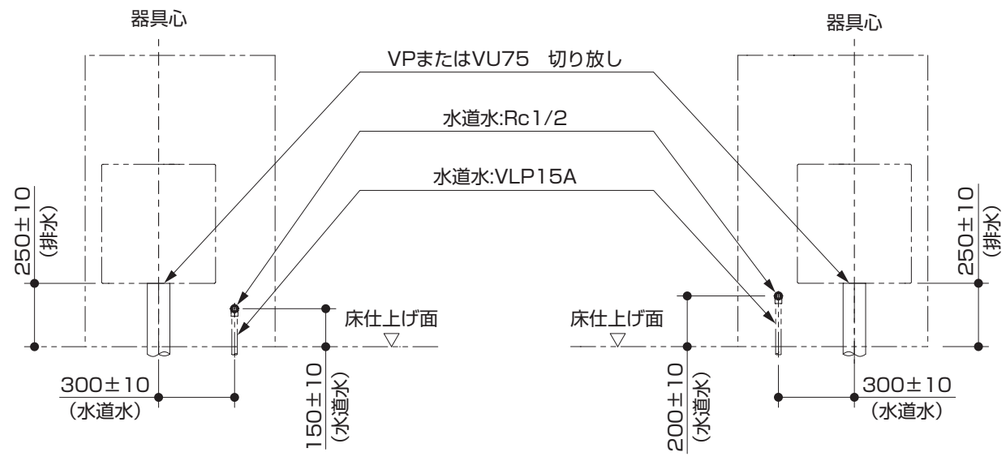


■事前施工情報　配管工事

- 商品の各仕様によって準備する配管の仕様が異なりますので、注意してください。
- 給水は下記の圧力の範囲内で使用してください。
  最低必要水圧:0.05MPa（流動時）、最高水圧:0.75MPa（静止時）
  ※快適に水栓をお使いいただくためには、0.2～0.3MPa程度の水圧をおすすめいたします。
- 排水は下図に示す位置にVP75またはVU75切り放し（1カ所）で準備してください。
  排水管を横引きで引き回す場合は、順勾配1/100を確実に確保してください。
- 配管は躯体壁などに確実に固定してください。

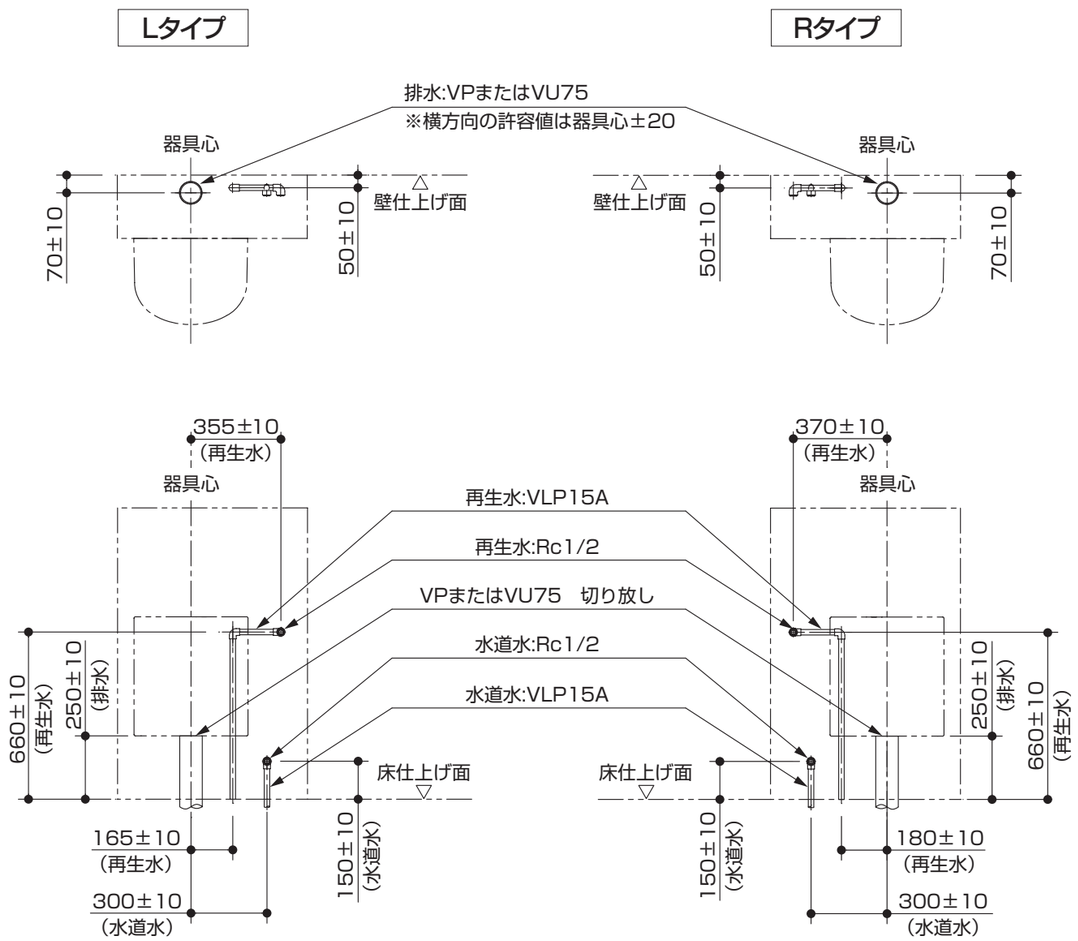
水道水、電気温水器あり仕様の場合





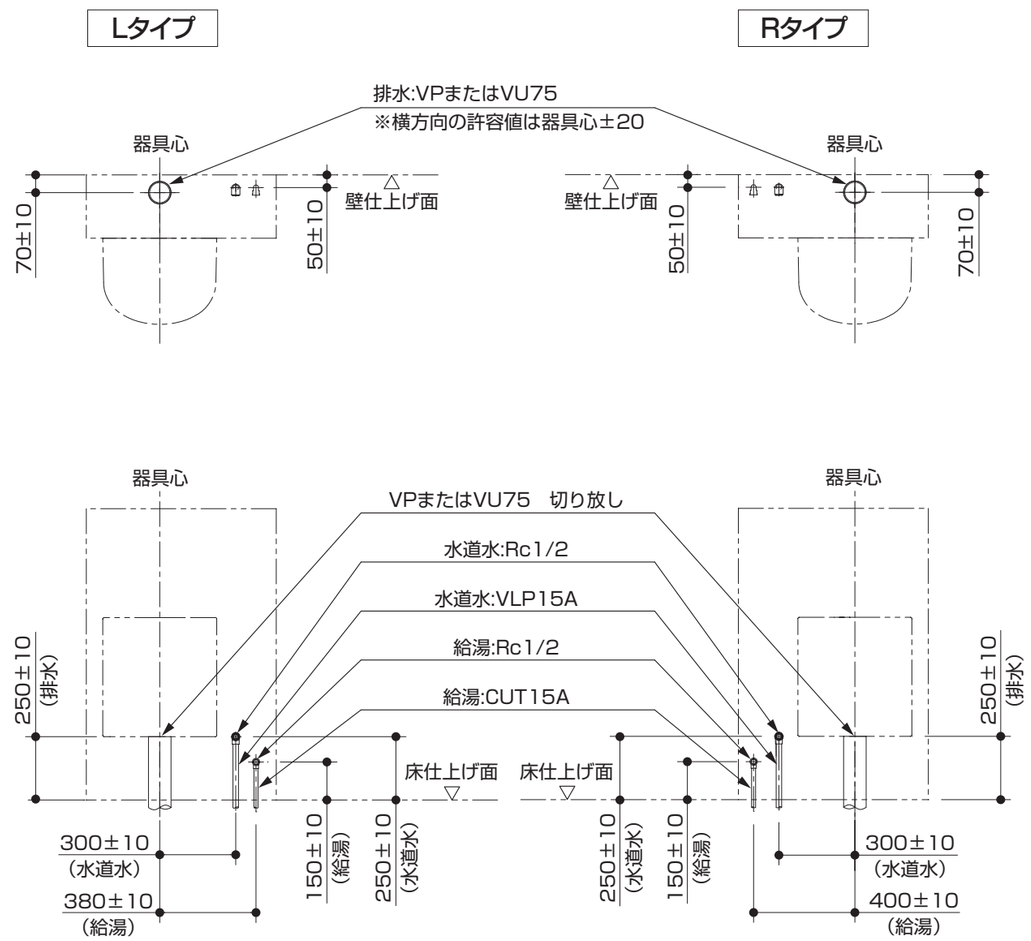
- 給水は上図に示す位置に下記をそれぞれ準備してください。
  ・<水道水仕様>　Rc1/2（1カ所）でご準備ください。
  止水栓1カ所から分岐して電気温水器とセットタンクとシングルレバーに接続します。
  ※末端は必ず異種金属接続用継手を使用してください。

再生水、電気温水器あり仕様の場合



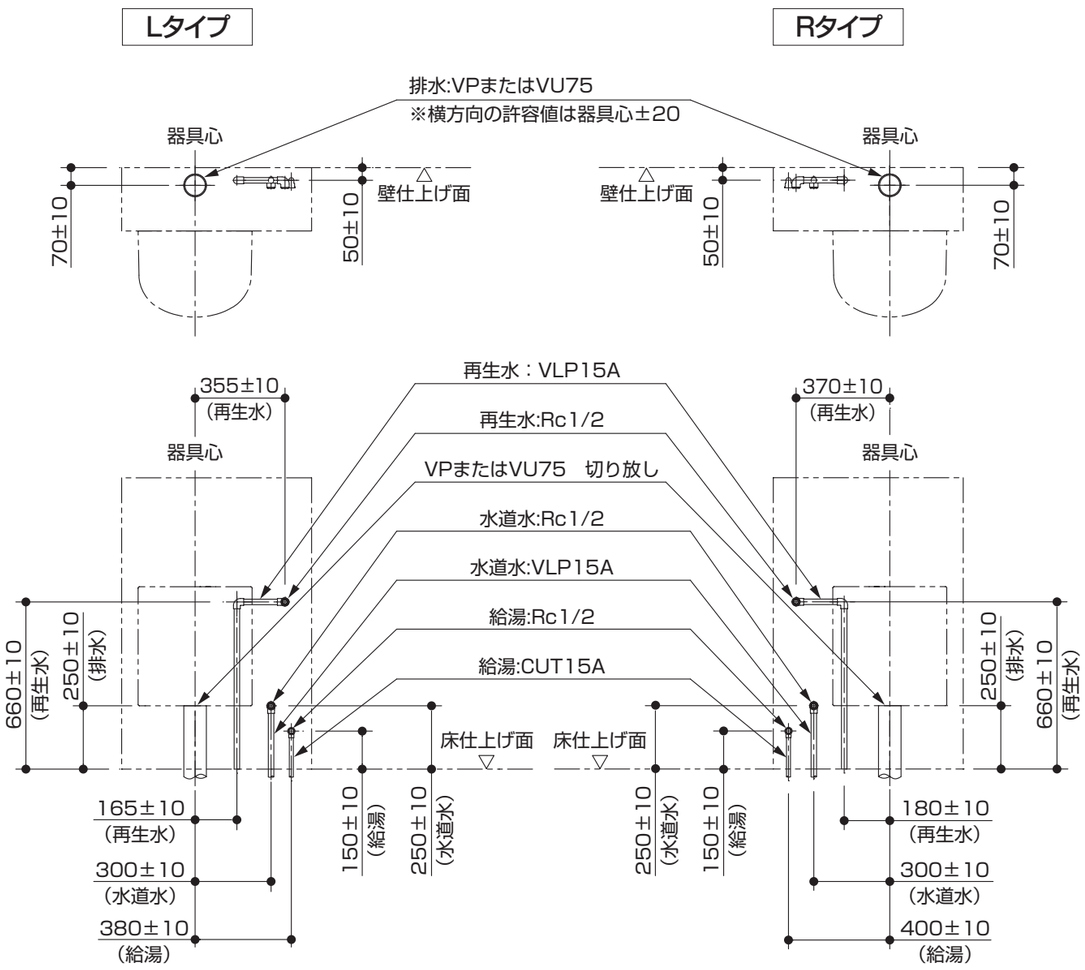
・給水は上図に示す位置に下記をそれぞれ準備してください。
　・<再生水仕様>　Rc1/2（2カ所）でご準備ください。
　（水道水）止水栓1カ所から電気温水器とシングルレバーに接続します。
　（再生水）止水栓1カ所からセットタンクに接続します。
　※末端は必ず異種金属接続用継手を使用してください。

水道水、電気温水器なし仕様の場合



・給水は上図に示す位置に下記をそれぞれ準備してください。
　・<水道水仕様>　Rc1/2（2カ所）でご準備ください。
　（給水）止水栓1カ所から分岐してサーモスタットとセットタンクとシングルレバーに接続します。
　（給湯）止水栓1カ所からサーモスタットに接続します。
　※末端は必ず異種金属接続用継手を使用してください。

再生水、電気温水器なし仕様の場合

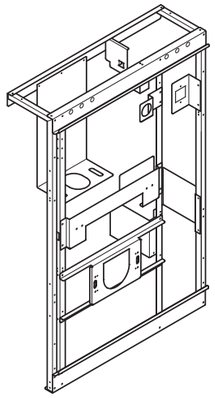


・給水は上図に示す位置に下記をそれぞれ準備してください。
　・<再生水仕様>　Rc1/2(3カ所)でご準備ください。
　給水(水道水):止水栓1カ所から分岐してサーモスタットとシングルレバーに接続します。
　給水(再生水):止水栓1カ所からセットタンクに接続します。
　　給湯　　:止水栓1カ所からサーモスタットに接続します。
　※末端は必ず異種金属接続用継手を使用してください。

3.部品の確認

フレーム

フレーム STEP 1



STEP 9・10

※フレームにテープ止め

【便器洗浄ユニット用】

バインド タッピンねじ φ4×8

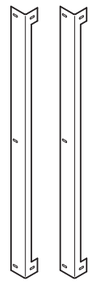
バインド タッピンねじ φ4×16

【電気温水器用(ありの場合)】

バインド タッピンねじ φ4×8（3本）

フィラー固定材 STEP 2

フレームにテープ止め

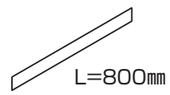


2個

バインド タッピンねじ φ4×8（4本）

※フィラー固定材にテープ止め

幅木 STEP 5



L=800㎜

フレーム部部品セット

フレーム壁床固定セット STEP 1

【共通】

トラスタッピンねじ φ5×50(4本)

大形角 呼び径6 (4個)

なべタッピンねじ φ5×30（7本）

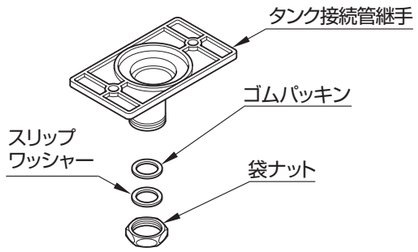
【耐水合板下地壁固定用】

ねじ受け材 (7個)

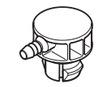
【コンクリート壁・床固定用】

樹脂プラグ (4本)

タンク接続管継手セット STEP 9



膨張水処理部材セット STEP 10

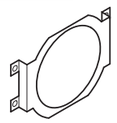


排水エルボ

×2

ホースセット L=900㎜×1本

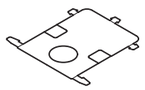
ソケット押さえ板 STEP 3



バインド タッピンねじ φ4×8（4本）

カバー(B)

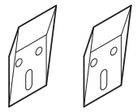
STEP 9



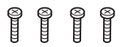
※電気温水器ありの場合
タンク段付き部に取り付け

バックハンガーセット

STEP 8



バックハンガー (2個)



アプセットタッピンねじ φ6×30（4本）

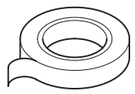
洗浄管

STEP 9

両面テープ

STEP 5・6・13

【フィラー・幅木用】



5m

底目地固定材

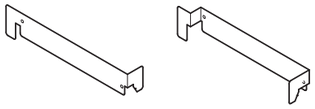
STEP 13

(2個)

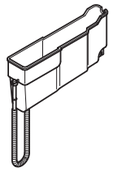
フレーム（つづき）

水受けトレイセット STEP 9

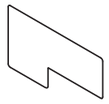
Lタイプの場合　Rタイプの場合



水受けトレイ支持材



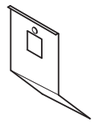
水受けトレイ



水受けトレイガイド

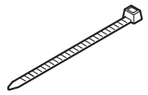
バインドタッピンねじ
φ4×8（2本）
※水受けトレイ支持材にテープ止め

水切板 STEP 9



水切板

結束バンド STEP 10



結束バンド
※停電対応ユニットのみ

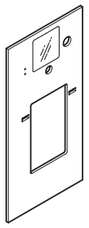
ラベル STEP 14

※全ての作業終了後に
張り付けを行います。
大切に保管してください。

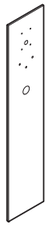
前板

前板セット STEP 6・7

【停電対応の場合】



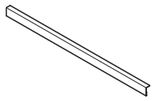
前板（汚物流し裏）



前板（紙巻器裏）

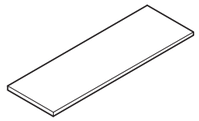
フィラー
（2個）

底目地材 STEP 13

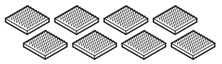


甲板

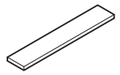
STEP 13



甲板



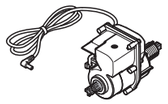
面ファスナー
透明と黒
各8個



化粧シート

リモコン便器洗浄ユニット・排水継手類

リモコン便器洗浄ユニット
STEP 10



便器洗浄ユニット

受信ユニット

ACアダプター

ストッパーL
（緑）

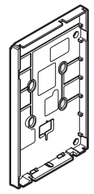
ナット

皿ねじ
（ストッパー用）
φ3×10

洗浄レバー
※停電対応あり
の場合は使用
しません。

シール

タッチスイッチ
STEP 11

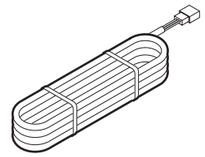


取付ハンガー

小ねじ（1本）

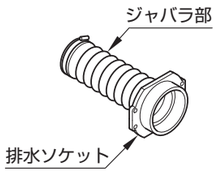
スイッチ付きカバー

木ねじ
（25mm×4本）



コネクター（白）
※有線スイッチタイプの場合

単独排水管継手
STEP 3・8



排水継手

排水パッキン

施工説明書

取扱説明書

止水栓・継手
STEP 4・14

※タイプによって組み合わせが異なります。
STEP 4のページを参照ください。

アングル型
止水栓

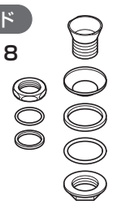
止水栓

開閉工具

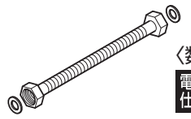
エルボ

分岐金具

スパッド
STEP 8

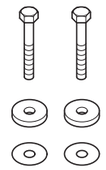


フレキ管 STEP 4・9

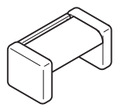


〈数量〉
電気温水器あり仕様の場合　L=600mm
電気温水器なし仕様の場合　L=400mm / L=600mm　各1本

便器取付ボルト STEP 8



紙巻器 STEP 12

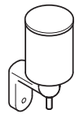


座金組込なべ
タッピンねじ
φ4.5×25（3本）

水石けん入れ STEP 12
※水石けん入れありの場合

皿タッピンねじ
φ4.5×30
（2本）

取付座



水石けん入れ

ワイヤーユニット STEP 10
※停電対応の場合

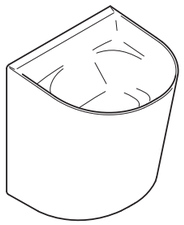
ワイヤーユニット

洗浄レバー

ホースクランプ

汚物流し

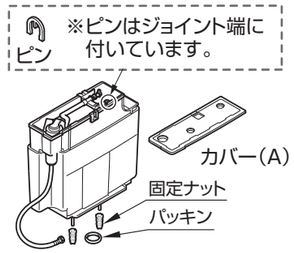
STEP 8



汚物流し本体

セットタンク

STEP 9

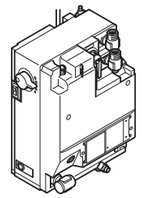


※カバー（B）はフレーム部部品セットに同梱

電気温水器

STEP 9

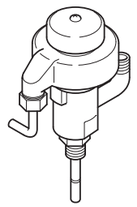
【電気温水器ありの場合】



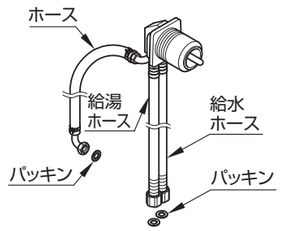
※取付部材、説明書など同梱

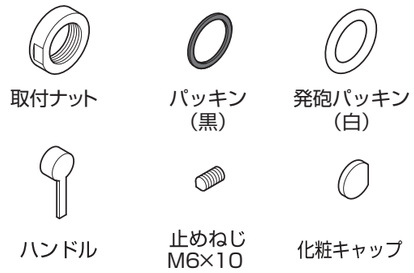
壁付シングル水栓

バキュームブレーカー STEP 9

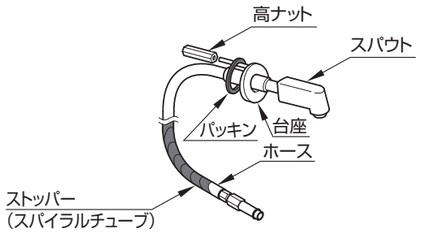


シングルレバー本体部 STEP 9





水栓スパウト STEP 9



側板（別売品）

STEP 1・2・5

手順編

STEP1.フレーム	▶20
STEP2.フィラー固定材・側板（側板がある場合）	▶22
STEP3.排水継手	▶24
STEP4.止水栓	▶25
STEP5.幅木	▶28
STEP6.フィラー	▶29
STEP7.前板	▶30
STEP8.汚物流し	▶31
STEP9.セットタンク	▶33
STEP10.便器洗浄ユニット	▶40
STEP11.タッチスイッチ	▶43
STEP12.器具類	▶44
STEP13.甲板	▶45
STEP14.試運転・確認	▶48

マーク表示について

電動ドライバー使用禁止です。手締めしてください。

下穴をあけてください。（例:φ3の場合）

カットしてください。

脱脂用アルコールで脱脂してください。

ロングビットの電動ドライバーを使用してください。

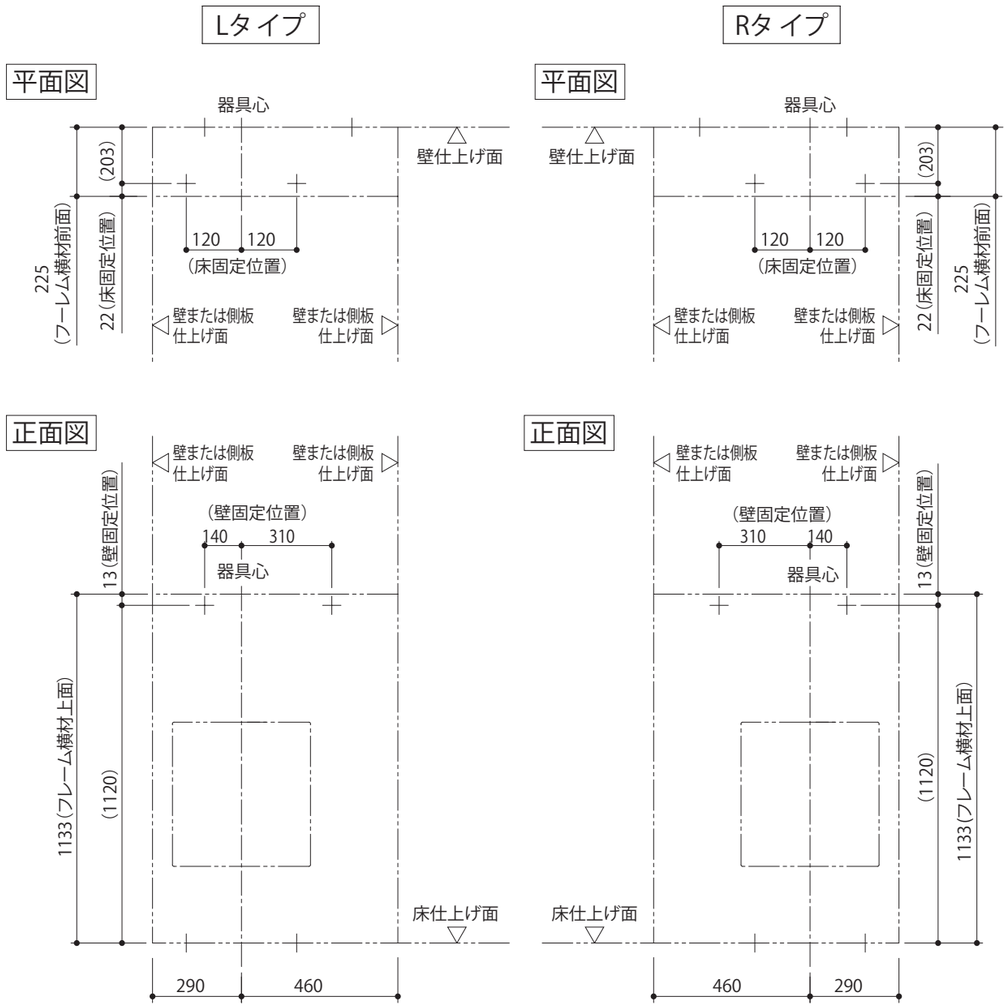
けがきをしてください。

水準器で水平･垂直確認してください。

STEP1.フレーム

1 器具心・固定位置の墨出し

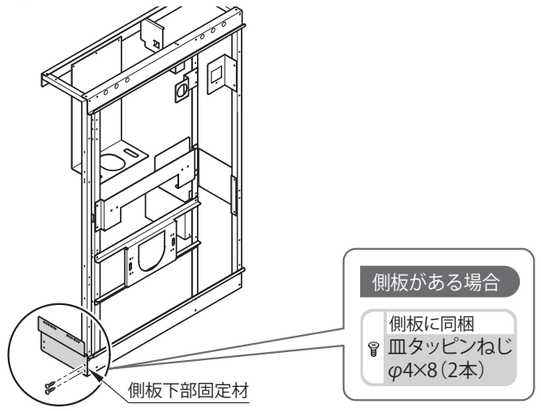
下記を参考に、器具心・フレーム位置・床／壁固定位置を墨出しする



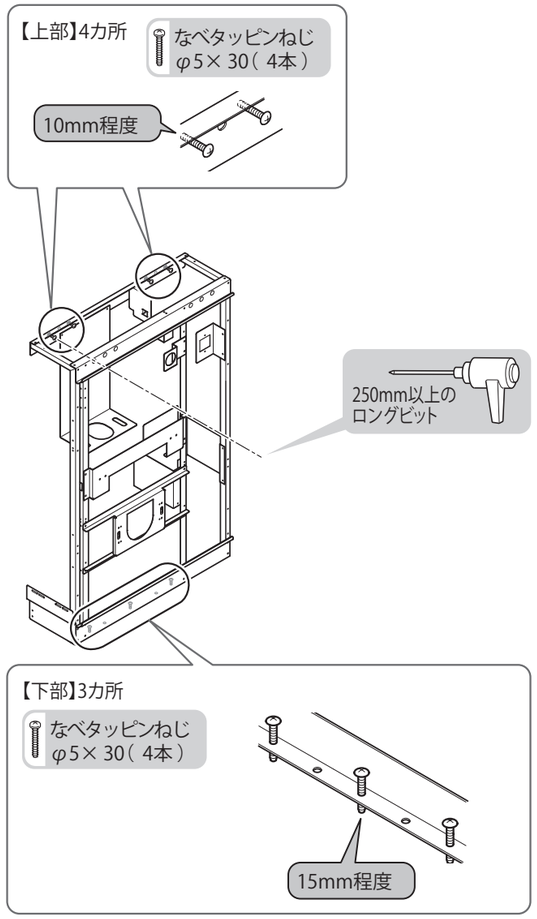
2 フレームの取り付け準備、取り付け

フレームにテープ止めされている、フィラー固定材を取り外して、保管しておいてください。

❶ 側板固定材の固定



❷ 調整用ねじの取り付け(フレーム準備)

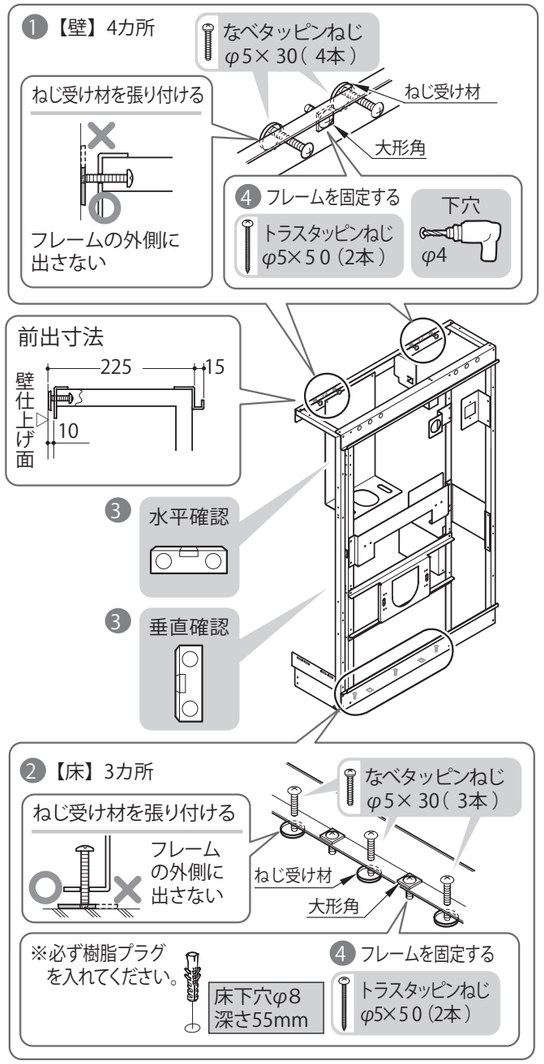


❸ フレームの調整、固定

※あらかじめ壁・床固定用下穴位置を確認してください。

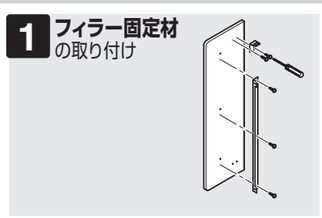
ポイント

ねじ受け材は両面テープで壁に仮止めしておくと取り付けやすくなります。

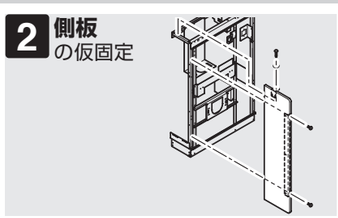


❹ ❸ で調整したねじを本固定する

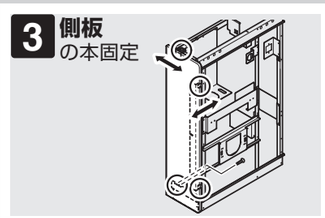
STEP2.フィラー固定材・側板（側板がある場合）



▶P.22



▶P.23



▶P.23

※本施工説明書では、側板がLタイプのフレームの向かって左側に取り付く場合を記載します。側板が向かって右側に取り付く場合は左右反転になります。

注　意

- **ドライバーで手締めすること**
- **フィラー固定材の向きを間違えない**

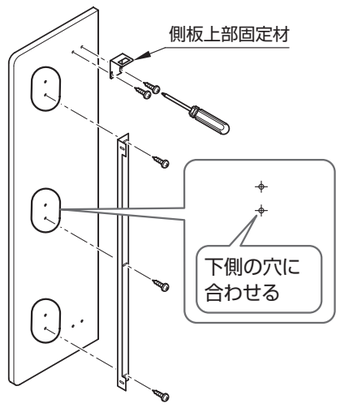
1 フィラー固定材の取り付け

側板ありの場合

❶ フィラー固定材と側板上部固定材をねじで仮固定する
※長穴の中心を目安に手で動かせる程度。

バインドタッピンねじ
φ4×12（5本）

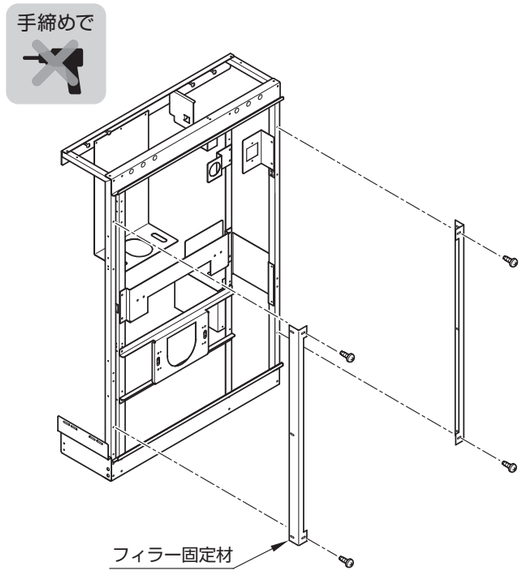
手締めで

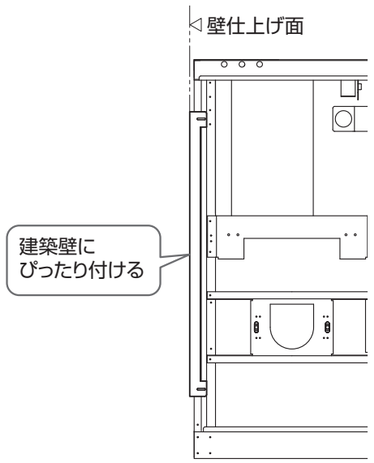


側板なしの場合

フィラー固定材にテープ止め
バインドタッピンねじ
φ4×8（4本）

手締めで





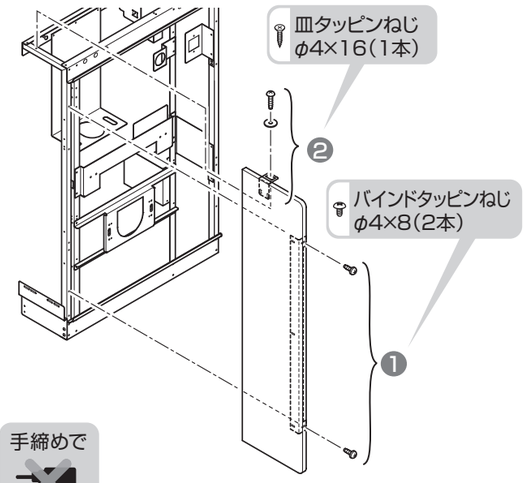
2 側板の仮固定

※側板がある場合

❶ フィラー固定材と側板上部固定材を仮固定
※長穴の中心を目安に手で動かせる程度

ポイント

フレームに側板を取り付ける時は、電動ドライバーは使用せず、手締めで作業する
締め込み過ぎにより空転を起こすおそれがあります。



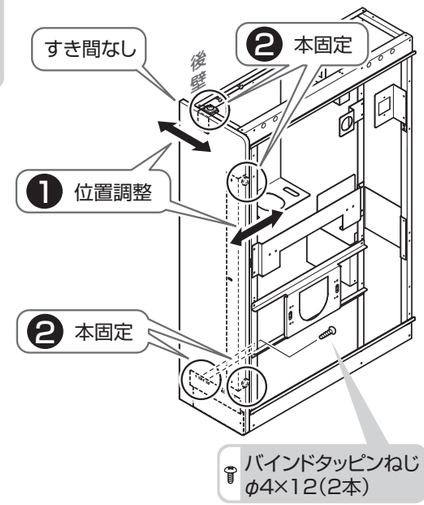
手締めで

3 側板の本固定

ポイント

ドライバーで手締めすること

手締めで



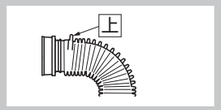
MEMO

STEP3.排水継手

▶単独排水管継手施工説明書参照

チェック

- **単独排水管継手の向きを確認**



- **排水ソケットが幕板とソケット押え板の中で上下左右に動くことを確認**

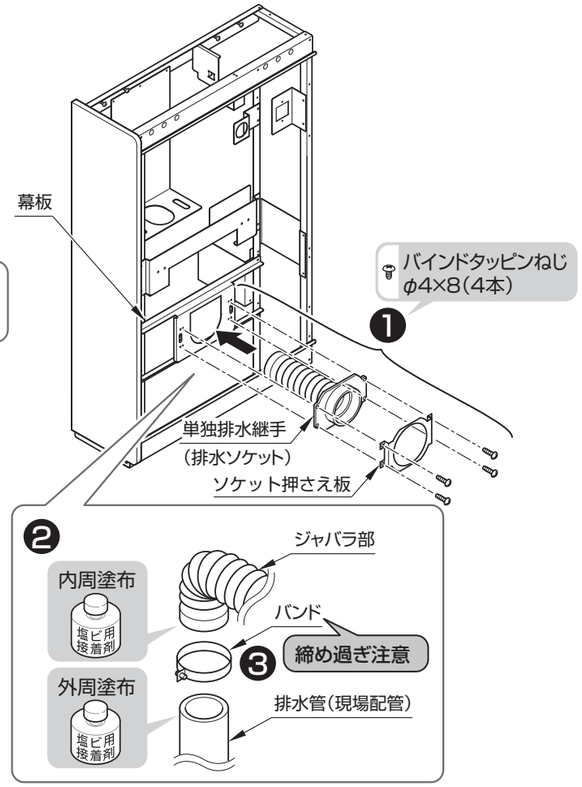
パッキンは陶器固定の際に使用しますので、捨てずに保管してください。

⚠ 注意

必ず実行

- ジャバラ部は必ず排水管に接着する
- ジャバラ部を無理に曲げたり逆勾配にならないよう接続する

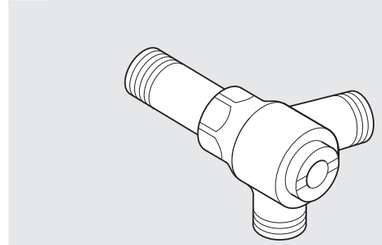
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。



MEMO

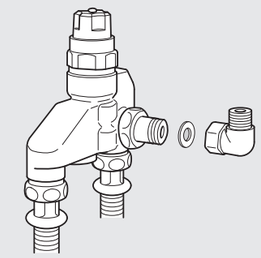
STEP4.止水栓

1 止水栓・分岐金具・L継手(サーモスタット)の取り付け



▶P.25

2 サーモスタット・止水栓の接続



▶P.26

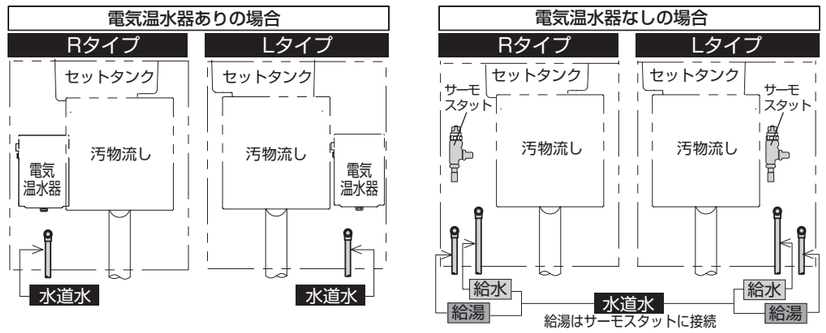
1 止水栓・分岐金具・L継手(サーモスタット)の取り付け

選択された仕様により取り付ける止水栓・継手が異なります。
下表に従い、図の向きに合わせて取り付けてください。

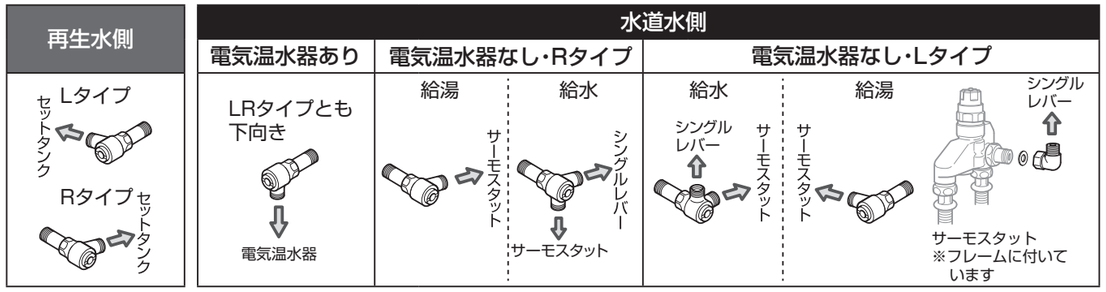
水道水仕様の場合

電気温水器あり・Rタイプ	電気温水器あり・Lタイプ	電気温水器なし・Rタイプ		電気温水器なし・Lタイプ	
		給湯	給水	給水	給湯
セットタンク ⇨ 電気温水器	セットタンク ⇦ 電気温水器	サーモスタット ⇨	シングルレバー ⇨ セットタンク ⇨ サーモスタット	シングルレバー ⇦ セットタンク ⇨ サーモスタット	サーモスタット ⇦ シングルレバー ⇧ サーモスタット ※フレームに付いています

<給水立ち上げ位置>



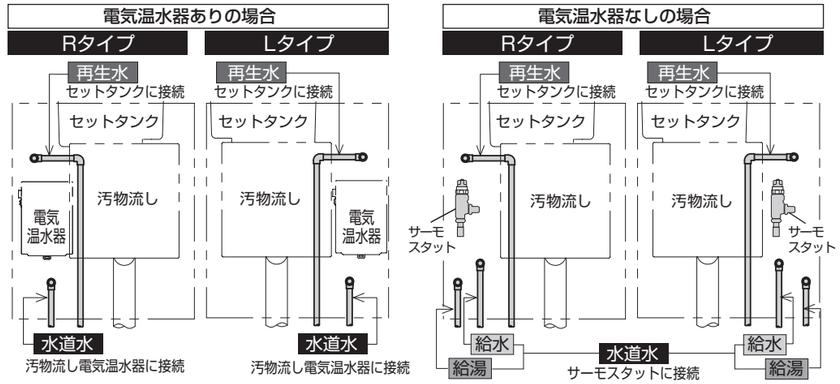
再生水仕様の場合



＜止水栓位置＞

注　意

給水接続は、水道水と再生水を間違えないように注意する



2 サーモスタット・止水栓の接続

下記表を参考に、各止水栓とサーモスタットをフレキ管で接続します。

サーモスタットの接続先	フレキ管長さ
止水栓（給水管用）	約600mm
止水栓（給湯管用）	約400mm

⚠ 警告

禁止

湯水を逆に接続しない
水を出そうとした際に湯が出て、やけどの原因になります。

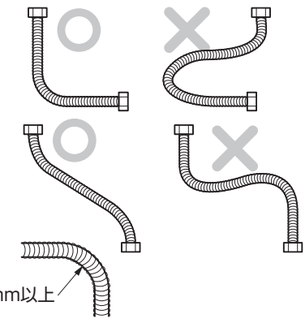
【各種サーモスタットの取出口】
・奥（壁）側…給湯用
・手前側……給水用

⚠ 注意

必ず実行

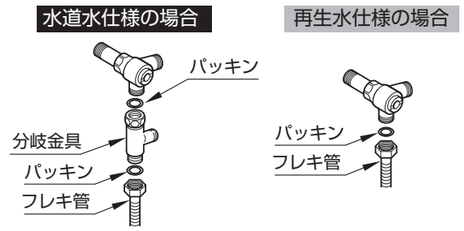
フレキ管の取り付けは必ず下記の項目にそれぞれ注意して行う
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

- **フレキ管は、取り付けの前にあらかじめ所定の形に曲げる**
  フレキ管は小さい角度で曲げないでください。
  また、袋ナット付け根部分を曲げないでください。
- **1～2回程度の曲げで所定の形にする**
  曲げ作業をくり返すと破損するおそれがあります。
- **必ず同梱のパッキンを使用する**
- **袋ナットは十分締め付け、取り付け後、水漏れがないことを確認する**
- **フレキ管は極端に折らず、R60以上を確保する**

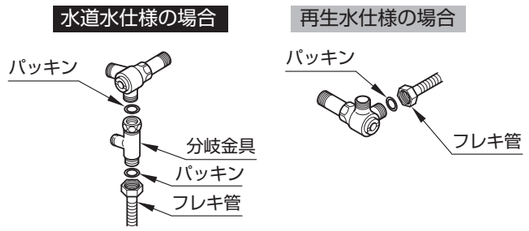


止水栓（給水管用）は一方の口をサーモスタットと接続し、もう一方の口はシングルレバーと接続します。
下記を参照して、接続する口を間違えないよう取り付けてください。
▶シングルレバーとの接続 P.39 STEP9参照

Rタイプの場合



Lタイプの場合



⚠ 注意

禁止

接続する給水口を逆に配管しない
フレキ管に無理な力がかかってキンクの原因となり水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

MEMO

STEP5.幅木

1 幅木の取り付け

❶ タイプに合わせて幅木を選定

側板なしの場合

幅木L=800㎜ 1枚(フレームに同梱)を使用

側板あり(片側)の場合

幅木L=800㎜(フレームに同梱)と
L型幅木(側板:別売品に同梱)を使用

側板あり(両側)の場合

幅木L=800㎜(フレームに同梱)と
L型幅木2枚(側板:別売品に同梱)を使用

MEMO

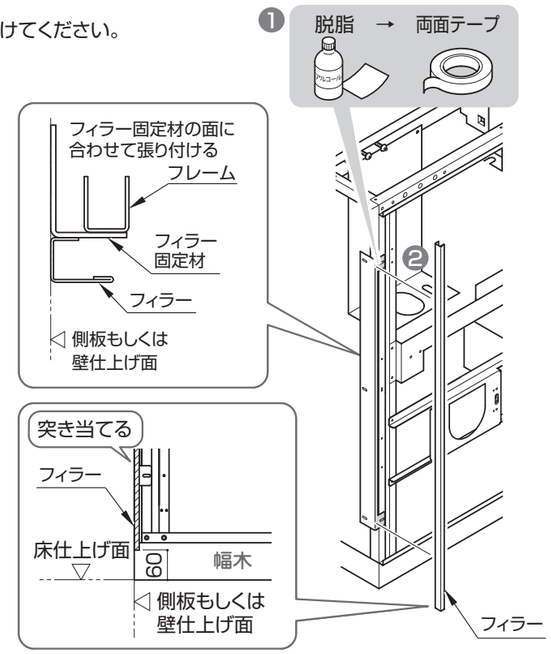
STEP6.フィラー

1 フィラーの取り付け

❶ フィラーの養生フィルムをはがす

❷ フィラーを張り付ける

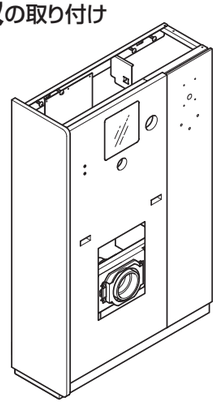
※フィラーを両側に張り付けてください。



MEMO

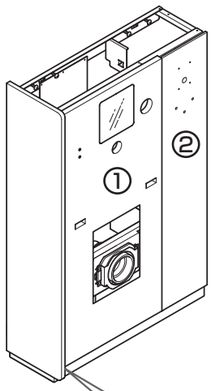
STEP7.前板

1 前板の取り付け



❶ 養生フィルムをはがす

❷ 前板を①、② の順番に取り付ける

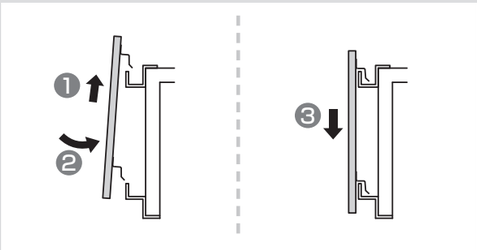


側板と前板のすき間1mm

ポイント

前板を取り付けた後、左右の前板と建築壁、側板とのすき間が均等になるように調整する

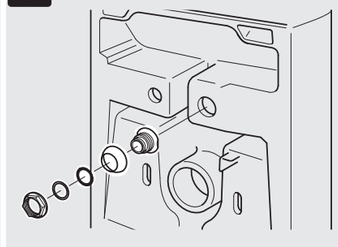
前板の取り付け方



MEMO

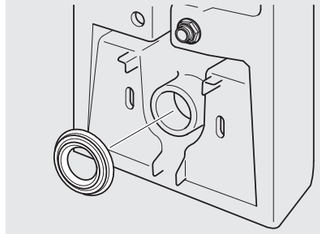
STEP8.汚物流し

1 スパッドの取り付け



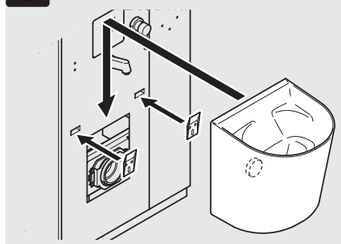
▶P.31

2 排水パッキンの取り付け



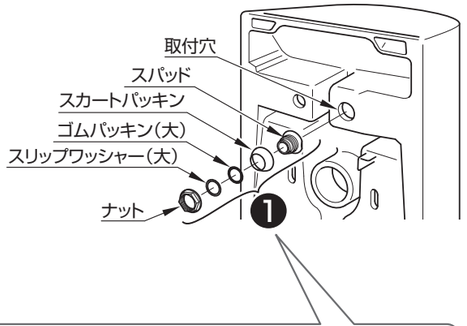
▶P.31

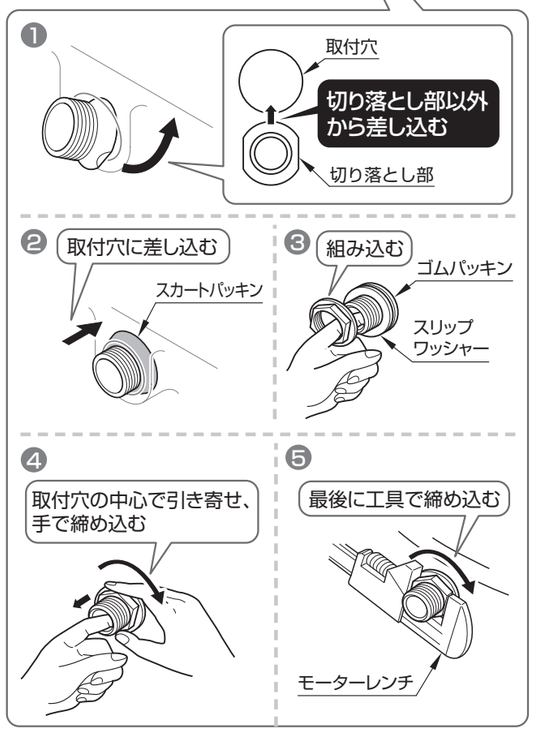
3 汚物流しの取り付け



▶P.32

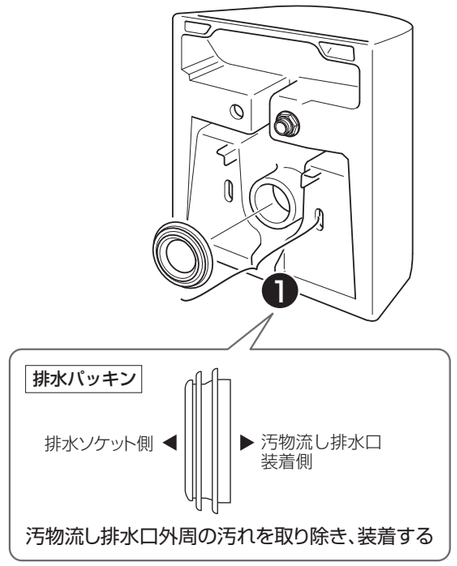
1 スパッドの取り付け





2 排水パッキンの取り付け

※排水パッキンは単独排水管継手に同梱



⚠ 注意

禁止

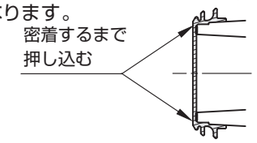
排水パッキン表面に必ず水または石けん水をつけてから差し込み、グリスは使用しない

劣化し水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

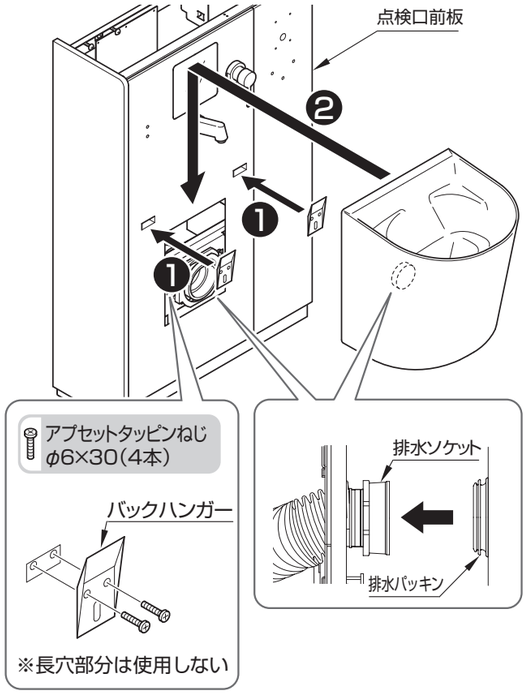
必ず守る

排水パッキンは汚物流し排水口に密着するまで押し込む

水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。



3 汚物流しの取り付け



⚠ 注意

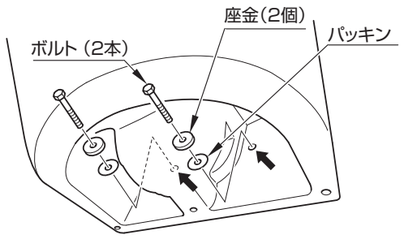
禁止

- **排水パッキン表面に必ず水または石けん水をつけてから差し込み、グリスは使用しない**
  劣化して水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。
- **排水パッキンを他の部位にぶつけない**
- **排水パッキンを強引に挿入しない**
  パッキンが変形したりめくれたりして水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

チェック

陶器を引っかける際、前板を傷つけないように注意してください。

❸ 本固定



⚠ 注意

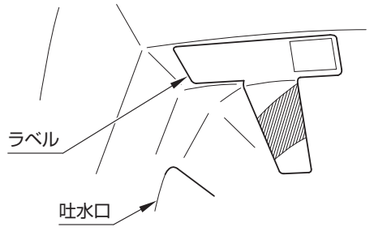
禁止

ボルトをきつく締めすぎない
陶器が割れ、けがの原因になります。

注 意

ボルトをきつく締めすぎると、器具裏前板と点検口に面段差が生じます。

❹ ラベルをはがす(フラッシュバルブ調整用)



※フラッシュバルブは使用していないので、このタイミングではがしてください。

MEMO

STEP9.セットタンク

1 洗浄管の取り付け
▶P.33

2 セットタンクの取り付け
▶P.34

3 バキュームブレーカーの取り付け
▶P.34

4 シングルレバーの取り付け
▶P.35

5 水受けトレイの取り付け
▶P.36

6 水栓スパウトの取り付け
▶P.37

電気温水器ありの場合

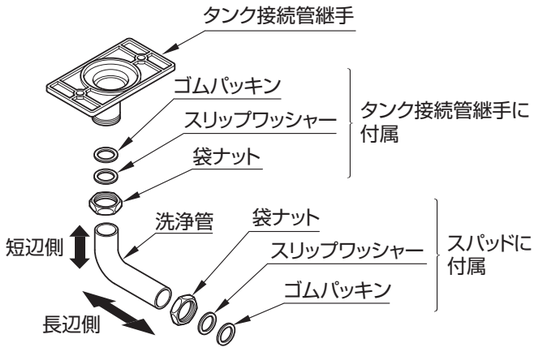
7 電気温水器の取り付け
▶P.38

8 シングルレバーの給水・給湯ホースの接続
▶P.39

1 洗浄管の取り付け

❶ 点検口前板を取り外す

❷ 洗浄管の仮組み

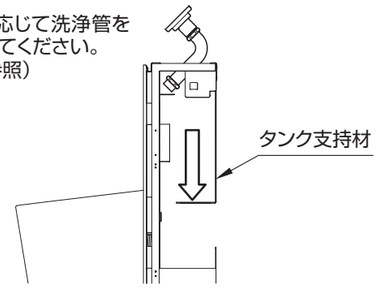


ポイント

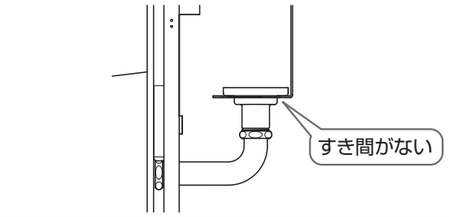
洗浄管の接続方向を間違えない

❸ 洗浄管の勾配を確認

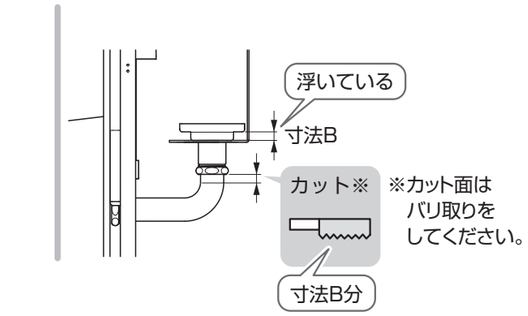
※必要に応じて洗浄管をカットしてください。(右上参照)

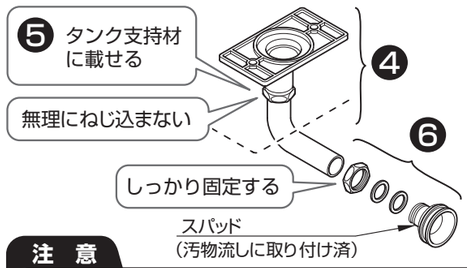


カットしない場合



カットする場合





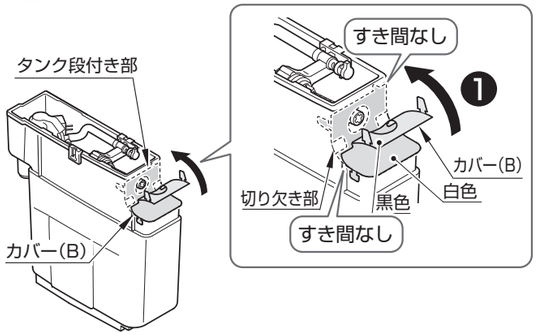
注 意

接続する際に、袋ナットがムーズに回らない時は無理に回したり締め込んだりしない
袋ナットを再度はめ直してください。

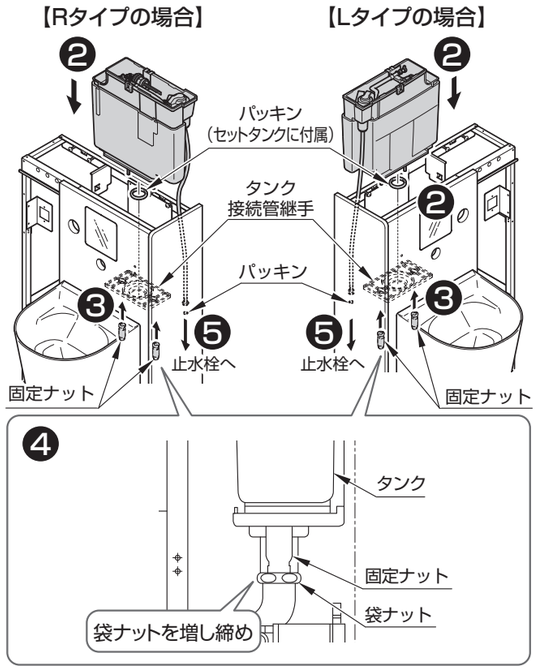
2 セットタンクの取り付け

電気温水器ありの場合

※電気温水器なし仕様の場合は、本作業は必要ありません。
❷から作業してください。



※カバー(B)はフレーム部部品セットに梱包されています。
※カバー(B)は白色の面を外側にして取り付けてください。



注 意

- **洗浄管が逆勾配になっていないかを確認**
- **再生水仕様の場合、水道水と再生水を間違えないよう給水接続をする**

⚠ 注意

必ず守る

セットタンクにパッキンがセットされていることを確認する
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

固定ナットの取り付けかた

⚠ 注意

工具使用禁止

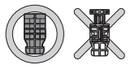
固定ナットを締め付けるときは必ず手で行う
工具を使用すると破損するおそれがあります。

固定ナットを手締めでかたく締め付ける。
※再度、左右が確実に締まっていることを確認してください。

⚠ 注意

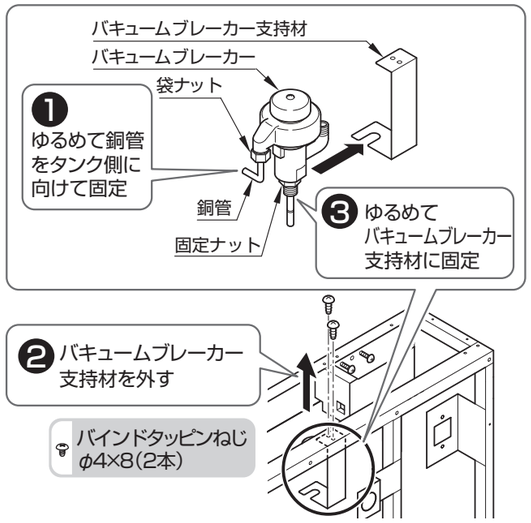
必ず守る

セットタンクを固定ナット(黒)以外で固定しない
水漏れするおそれがあります。

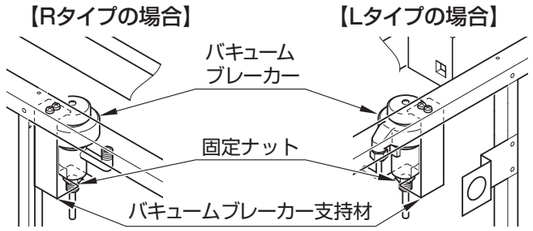


左右の固定ナットを確実に締める
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

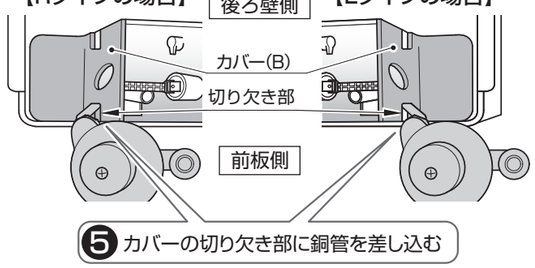
3 バキュームブレーカーの取り付け



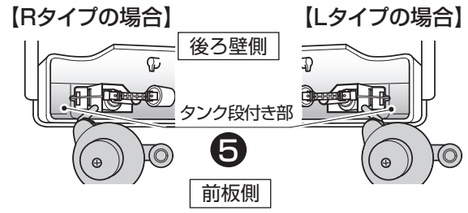
❹ ❷で外したねじでバキュームブレーカー支持材を取り付ける



電気温水器ありの場合

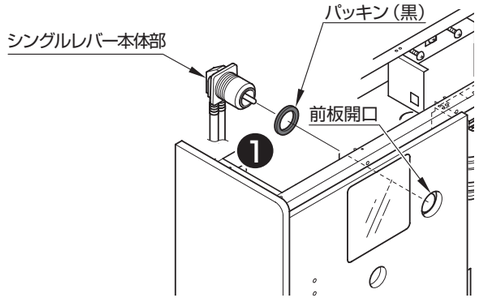


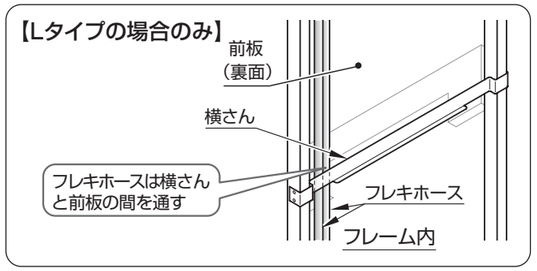
電気温水器なし仕様の場合



❻ 銅管の袋ナットを締め付ける

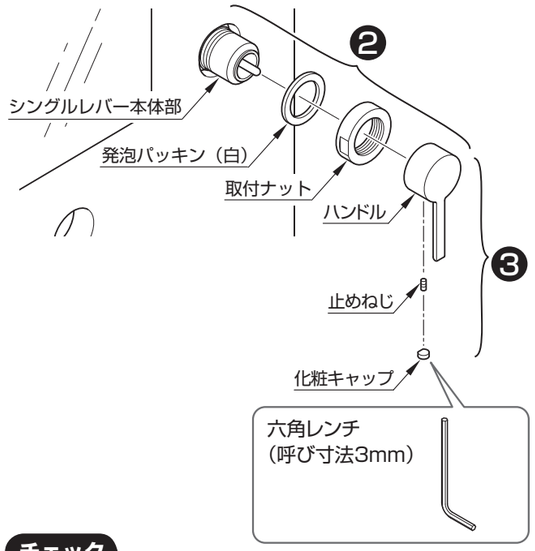
4 シングルレバーの取り付け





チェック

Lタイプの場合のみ、フレーム内のシングルレバーのフレキホースは、横さんと前板の間を通す
水受けトレイが、フレキホースの裏側に取り付けられるので、フレキホースを横さんの外側に通すと水受けトレイが干渉し、取り付きません。Rタイプの場合は横さんの外側を通してください。



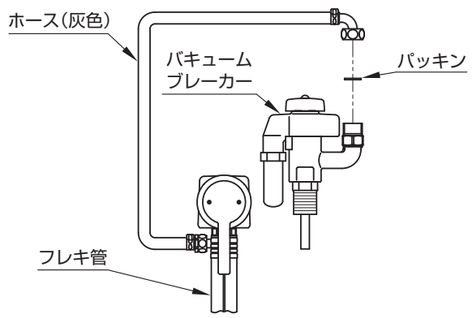
チェック

□ハンドルの向きは正しいか
(ハンドルの動作範囲は右図参考)

□ハンドルは確実に取り付いているか
(ハンドル操作で確認)

□化粧キャップは栓の根元側に切り落とし部がくるように取り付ける

❹ バキュームブレーカーの接続

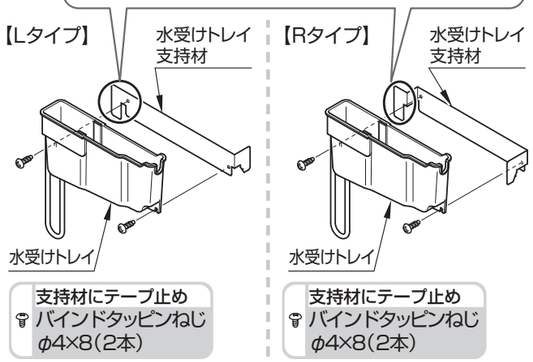


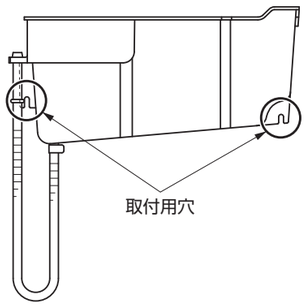
5 水受けトレイの取り付け

注 意

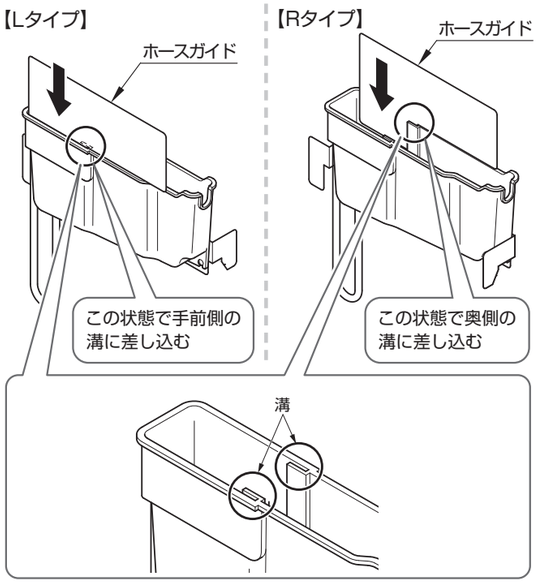
タイプ違いで水受けトレイ支持材の形状が異なるため下図を参照

❶ ※支持材の方向に注意してください。
支持材の出っ張りが下を向く方向で設置します。





❷ ホースガイドの取り付け

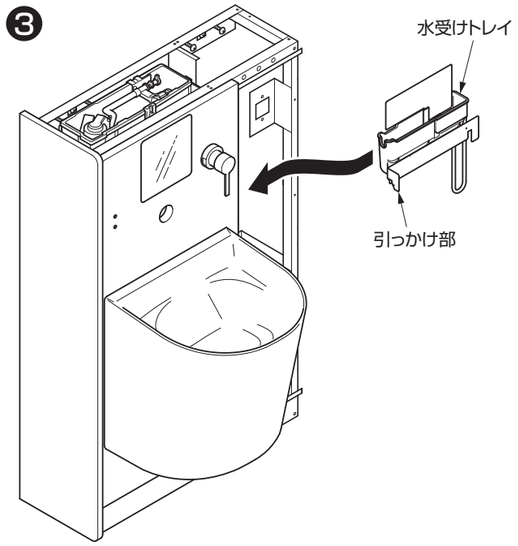


チェック

ホースガイドが溝に正しく差し込まれていることを確認

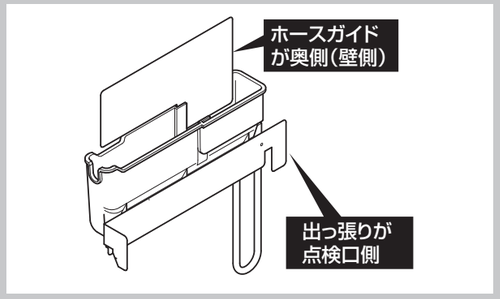
正しく差し込まれていないと水栓が取り付きません。

❸

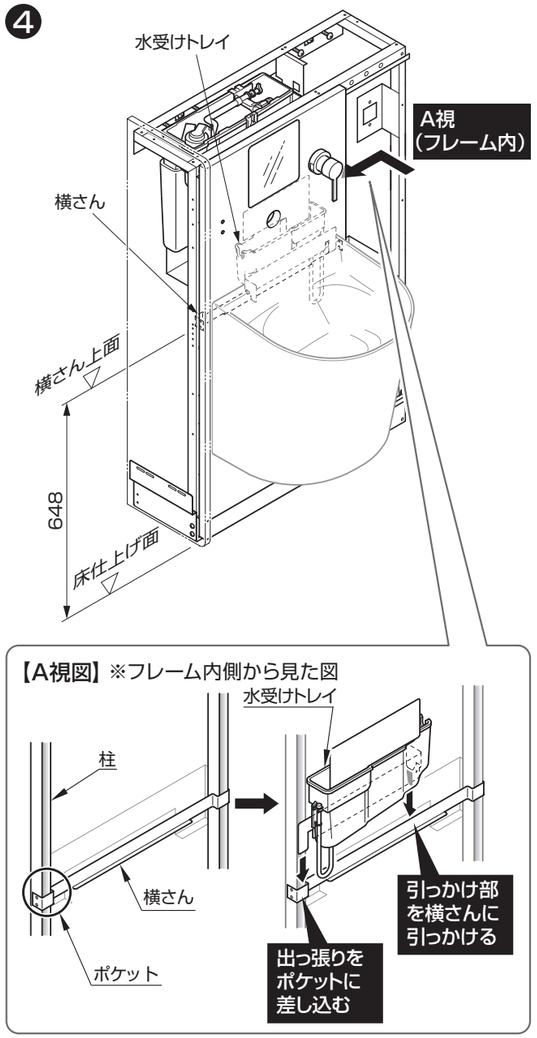


チェック

水受けトレイの向きを確認

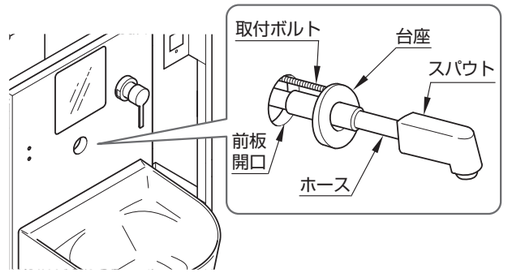


❹



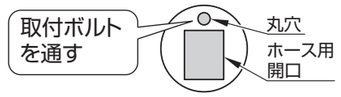
6 水栓スパウトの取り付け

❶ 台座の取り付け



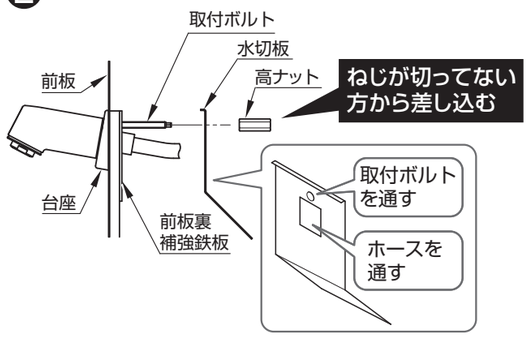
ポイント

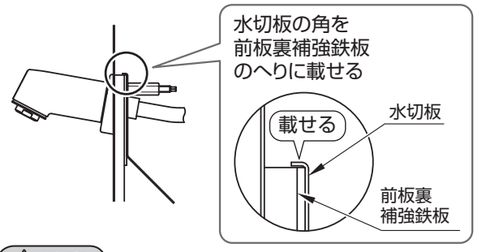
取付ボルトを前板のホース用開口の上部の丸穴に挿入する



前板開口部正面図

❷





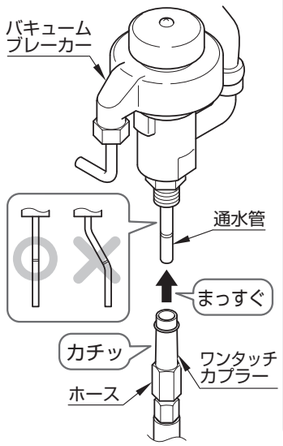
⚠ 注意

水切板は必ず正しい位置に取り付ける

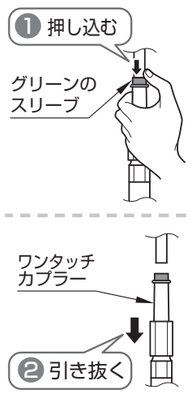
必ず守る

水切板は水栓使用時にホースを伝ってフレーム内に入った水を水受けトレイに誘導する役割があります。 水切板が正しい位置に取り付いていないと水受けトレイから水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

❸ ホースの接続



ホースの取り外し方法



ポイント

ワンタッチカプラーをバキュームブレーカーの通水管にまっすぐ差し込む

「カチッ」と音がして、それ以上差し込めなくなるまで差し込んでください。念のためもう一度ホースを奥まで差し込んでください。

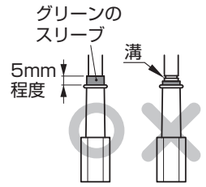
⚠ 注意

必ず守る

ワンタッチカプラーは通水管にまっすぐ奥まで差し込む

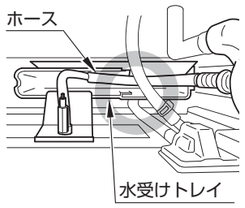
奥まで差し込まなかった場合、不完全な差し込み状態となり、水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

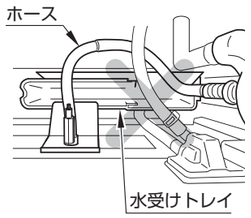
【チェック】

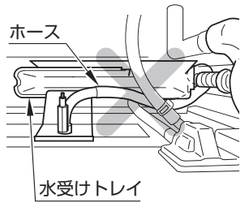


□通水管の溝が隠れているか
□ホースのグリーンのスリーブが5mm程度出ているか
□ホースをまっすぐ下に引っ張っても外れないか

□スパウトを台座に収納した際に、スパウトのホースが水受けトレイに納まっているか（フレームの上面から確認してください。）





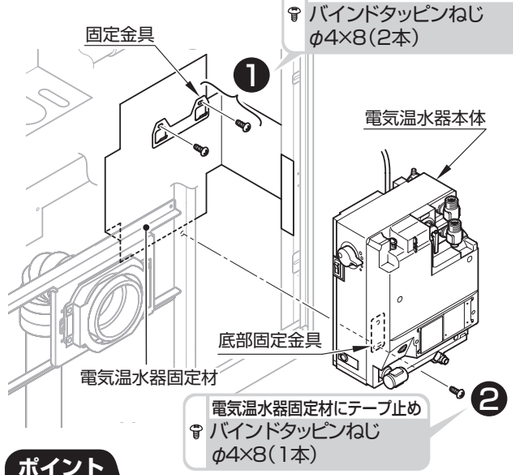


電気温水器ありの場合

7 電気温水器の取り付け

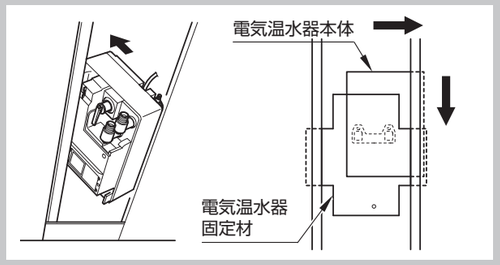
▶電気温水器施工説明書参照

必ず使用



ポイント

【電気温水器を引っかける時】
- **斜めにしてフレーム内に入れる**
- **電気温水器固定材の右側に添わせると、固定金具に取り付けやすくなる**

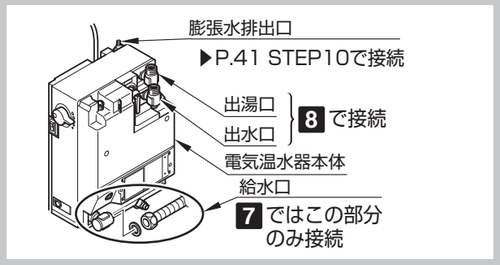


❸ 給水管の接続

▶電気温水器施工説明書参照

チェック

本商品のこの工程では、給水口のみ接続するため、その他の接続は後の工程で行う



止水栓と電気温水器をフレキ管（L=600mm）で接続する

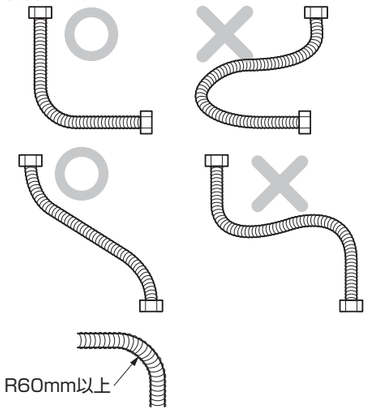
⚠ 注意

必ず守る

フレキ管の取り付けは必ず下記の項目にそれぞれ注意して行う

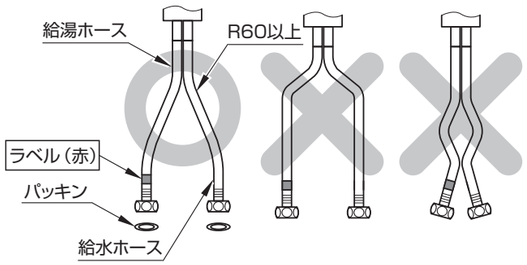
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

- **フレキ管は、取り付けの前にあらかじめ所定の形に曲げる**
  フレキ管は小さい角度で曲げないでください。また、袋ナット付け根部分を曲げないでください。
- **1～2回程度の曲げで所定の形にする**
  曲げ作業をくり返すと破損するおそれがあります。
- **必ず同梱のパッキンを使用する**
- **袋ナットは十分締め付け、取り付け後、水漏れがないことを確認する**
- **フレキ管は極端に折らず、R60以上を確保する**



8 シングルレバーの給水・給湯ホースの接続

❶ シングルレバーの給水・給湯ホース（フレキホース）の接続



⚠ 注意

禁止

ホースを必要以上の力で曲げて折らない

ホースの最小曲げ半径は60mmです。それよりも小さく曲げて使用するとホースが破損して水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

ホースを必要以上に接触させない

外部補強層の摩擦によりホースに傷が付いて水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

ホースを水栓本体端面から極端に歪曲して施工しない、無理に引っ張らない

ホースが破損して水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

必ず守る

ホースを接続する際にパッキンの入れ忘れがないか確認する

水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

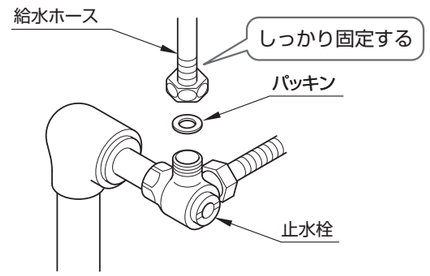
電気温水器ありの場合

▶電気温水器施工説明書「取付手順」参照

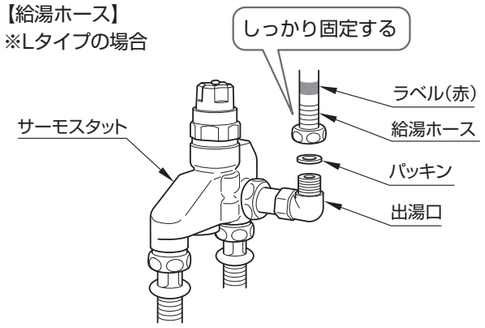
給水・給湯ホースを電気温水器の出水口・出湯口に接続

電気温水器なしの場合

【給水ホース】
※Lタイプ再生水仕様の場合

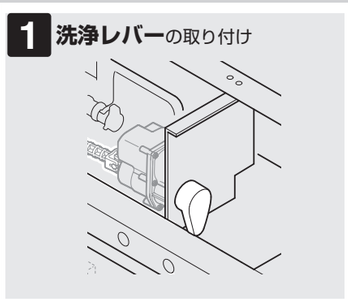


【給湯ホース】
※Lタイプの場合



STEP10.便器洗浄ユニット

1 洗浄レバーの取り付け

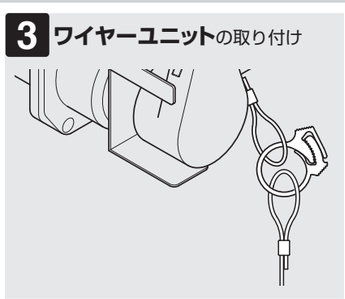


▶P.40

2 受信ユニットの取り付け

▶P.41

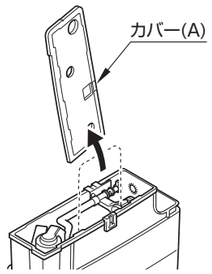
3 ワイヤーユニットの取り付け



▶P.42

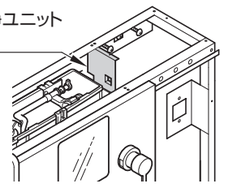
1 洗浄レバーの取り付け

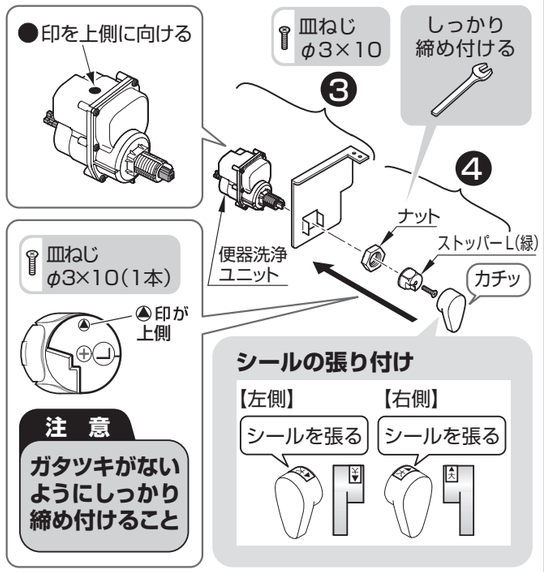
❶



※パッキンははずさないでください。

❷



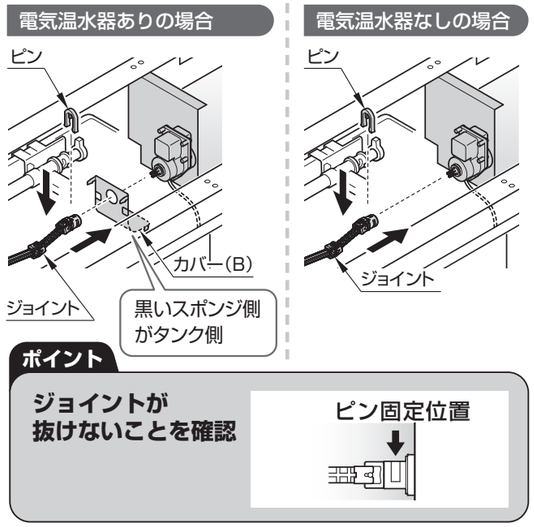


注 意

ガタツキがないようにしっかり締め付けること

❺ ジョイントからピンを取り外す

❻



ポイント

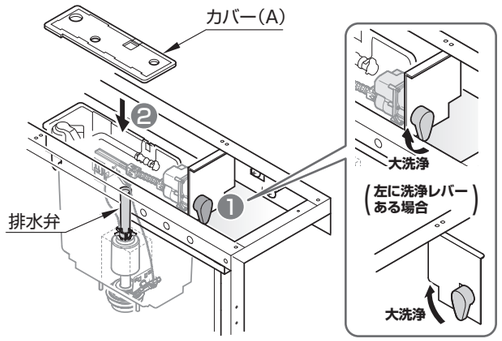
ジョイントが抜けないことを確認

ピン固定位置

❼ 作動確認

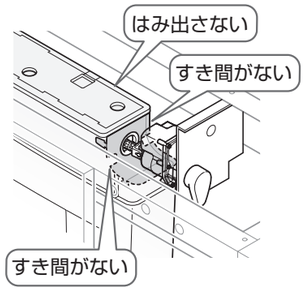
【確認ポイント】

□レバーを「大」側に回して、排水弁のみが引き上がることを確認してから、カバー(A)を付ける



電気温水器ありの場合

❽

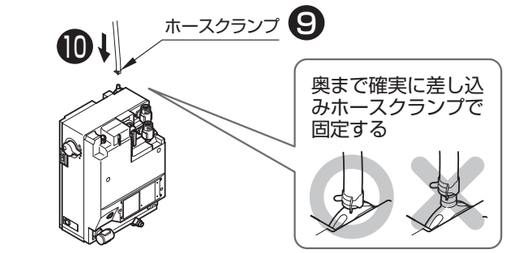


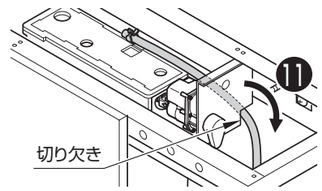
⚠警告

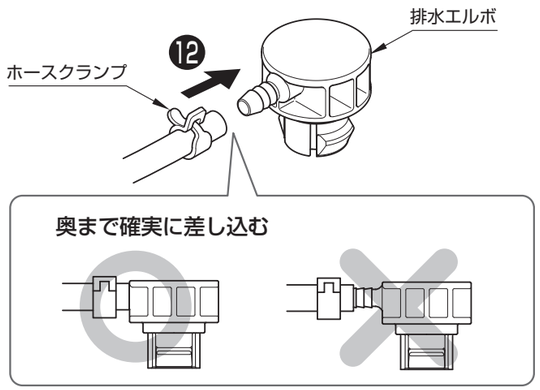
必ず守る

セットタンクのカバー(A)、カバー(B)はタンクとのすき間ができないように確実に取り付ける

水濡れにより、感電、または、建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。







⚠警告

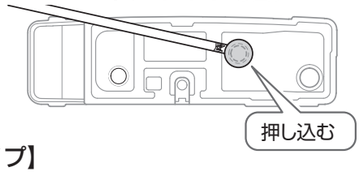
必ず実行

軟質ホースは継手の根元まで手で差し込み、ホースクランプを確実に取り付ける

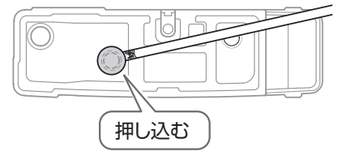
水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

⓭ 排水エルボの取り付け

【Rタイプ】
(左にレバーハンドルがある場合)



【Lタイプ】
(右にレバーハンドルがある場合)

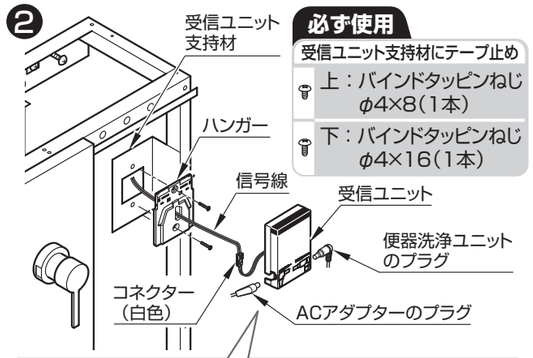


2 受信ユニットの取り付け

❶ 受信ユニットをハンガーから外す

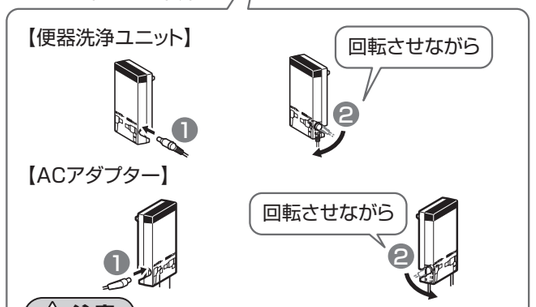
※強く上へあげますと信号線が切れるおそれがあります。

❷



必ず使用

受信ユニット支持材にテープ止め
上：バインドタッピンねじ φ4×8(1本)
下：バインドタッピンねじ φ4×16(1本)



⚠注意

禁止

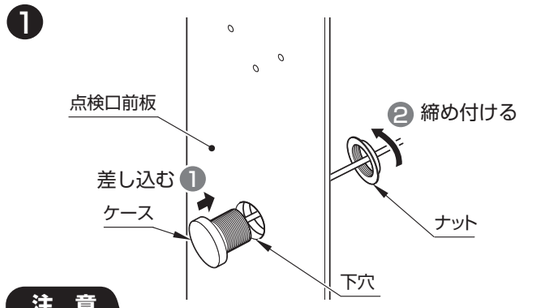
プラグを逆に差し込まない

壊れる可能性があります。

3 ワイヤーユニットの取り付け

停電対応の場合

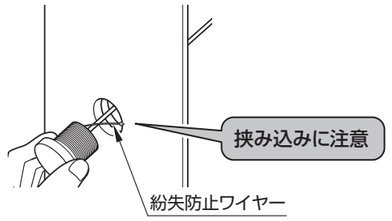
❶

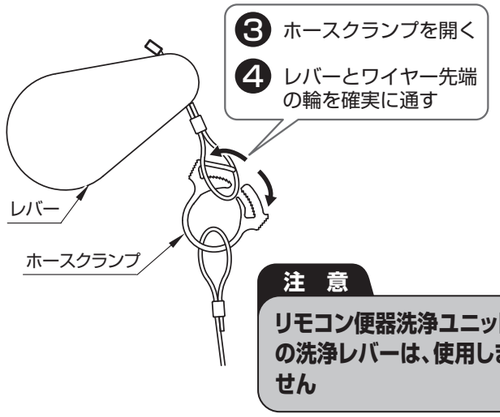


注 意

確実に締め付けること
締め付けが弱いと使用時に押ボタンが外れるおそれがあります。

❷ 紛失防止ワイヤーを下にして、ワイヤーユニットを取り付ける
※開口にゴミやワイヤーが入らないようにしてください。





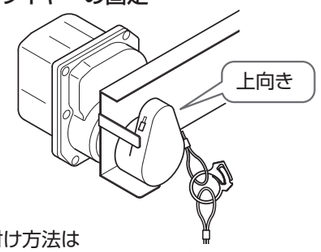
注 意

リモコン便器洗浄ユニットの洗浄レバーは、使用しません

注 意

付属のホースクランプ以外で繋げないこと
正常に動作しない可能性があります。

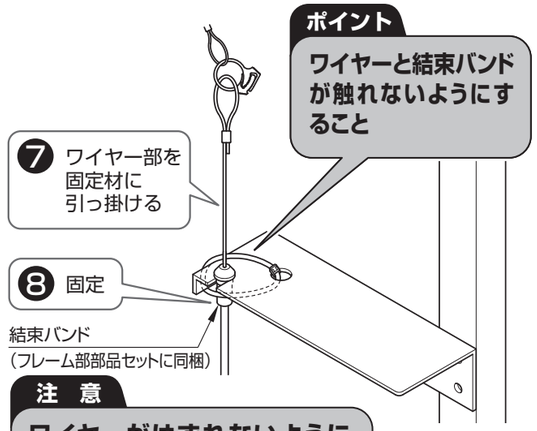
❻ レバーとワイヤーの固定



※レバー取り付け方法は
P.40「STEP10.便器洗浄ユニット」 1 を参考にしてください。

ポイント

ワイヤーと結束バンドが触れないようにすること

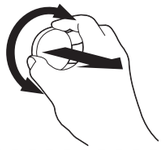


注 意

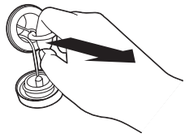
ワイヤーがはずれないように結束バンドで固定すること

❾ 動作確認

❶ 停電時にキャップを回しながら外す

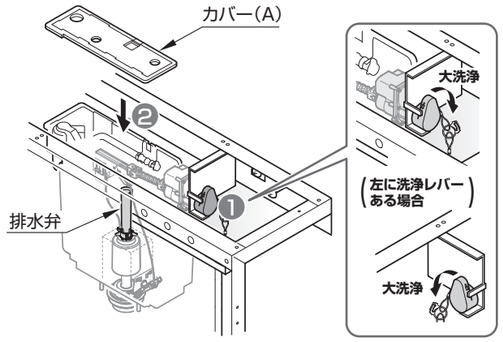


❷ リングを引いて動作を確認する



❿ 作動確認

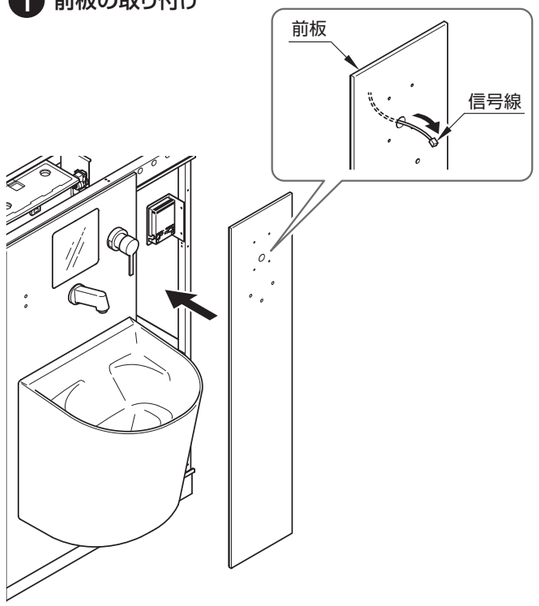
【確認ポイント】
□リングを引いて、排水弁のみが引き上がることを確認してから、カバー(A)を付ける



STEP11.タッチスイッチ

1 タッチスイッチの取り付け

❶ 前板の取り付け



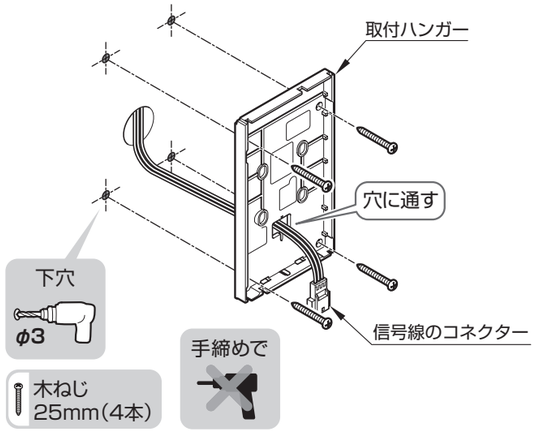
❷ ハンガーの取り付け

注 意

インパクトドライバーは使用しない

チェック

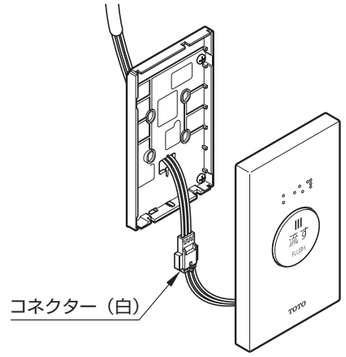
取付ハンガーをそらさない
スイッチユニット付カバーがたついたり、器具が破損するおそれがあります。



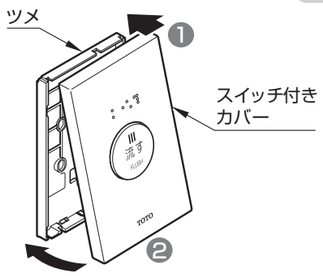
❸ コネクターの接続

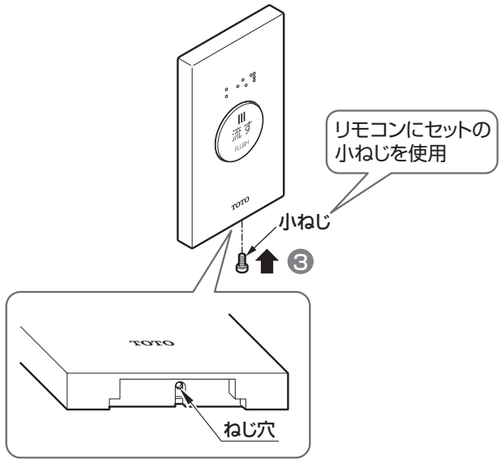
注 意

スイッチユニットを落下させない
コードがコネクターから抜けるおそれがあります。



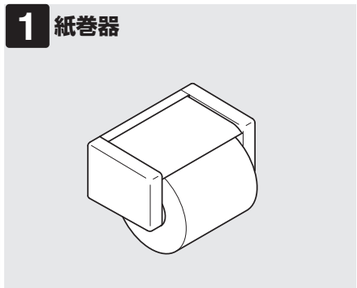
❹ スイッチ付きカバーの取り付け





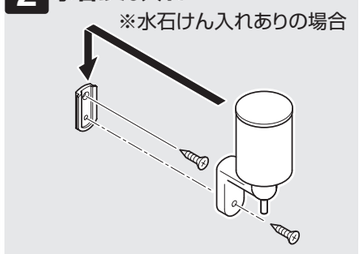
STEP12.器具類

1 紙巻器



▶P.44

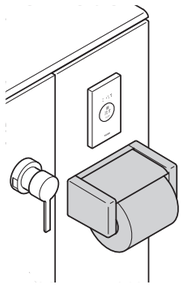
2 水石けん入れ
※水石けん入れありの場合



▶P.44

1 紙巻器

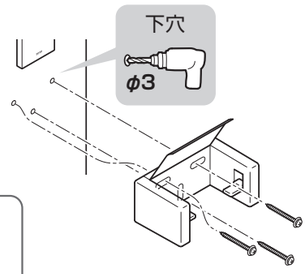
▶紙巻器施工説明書参照



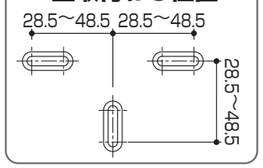
取り付け

必ず使用

座金組込なべタッピンねじ
φ4.5×25(3本)



壁取付ねじ位置



⚠ 注意

必ず守る

取付完了後、商品にガタツキがないことを確認する

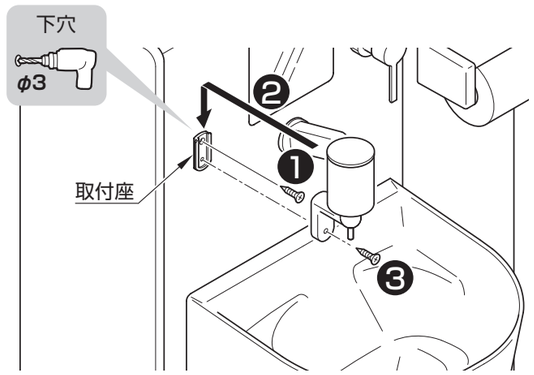
商品にガタツキがあると、商品が外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。

2 水石けん入れ

※水石けん入れありの場合

取付座を上側の皿タッピンねじ1本で取り付け、水石けん入れを上から差し込み下側のねじで共締めする。

皿タッピンねじ
φ4.5×30(2本)



⚠ 注意

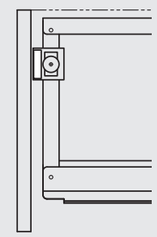
必ず守る

下穴をあける際、ドリルでセットタンクに穴をあけないように注意する

水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

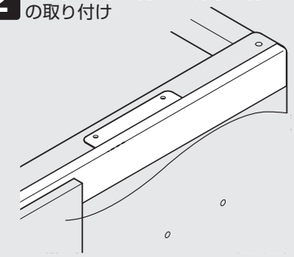
STEP13.甲板

1 甲板の取り付け準備



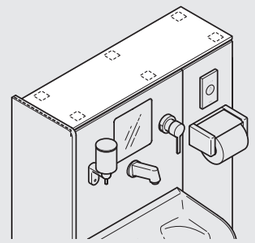
▶P.45

2 底目地固定材・底目地材の取り付け



▶P.45

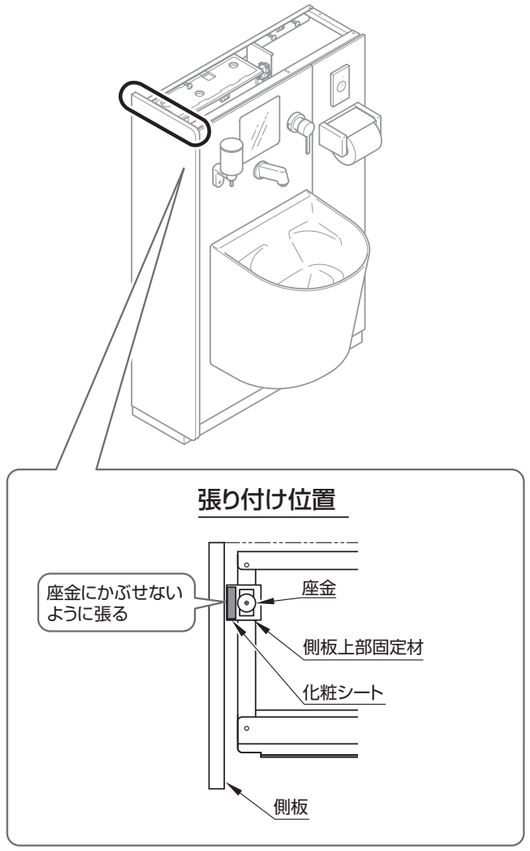
3 甲板の取り付け



▶P.47

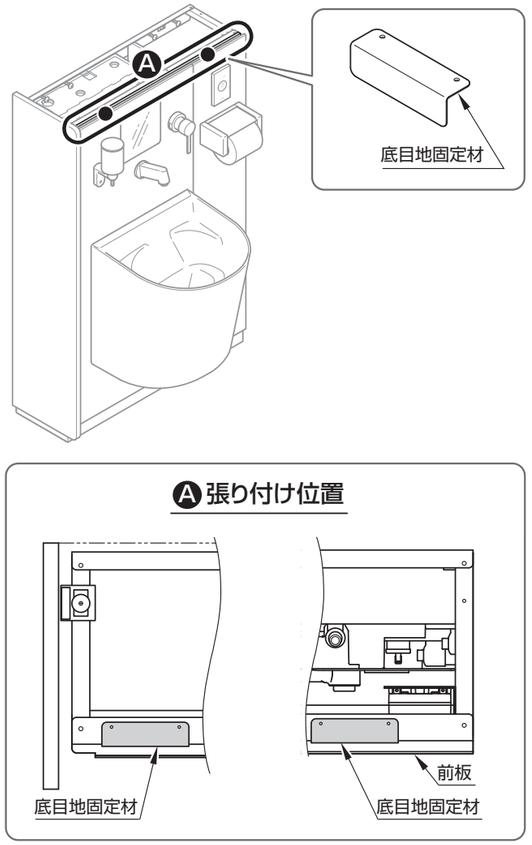
1 甲板の取り付け準備

側板が付く側のフレーム上面（側板上部固定材）に化粧シートを張り付ける



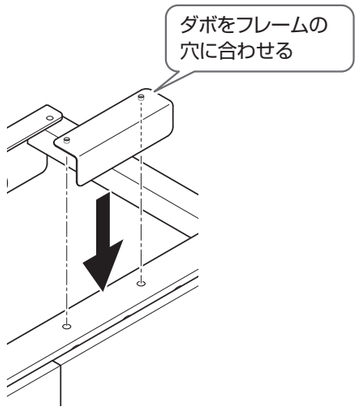
2 底目地固定材・底目地材の取り付け

底目地固定材(● の位置)を張り付け(2カ所)、
底目地材(Ⓐ の位置)を張り付ける



❶ 底目地固定材の準備

❷ 底目地固定材の取り付け



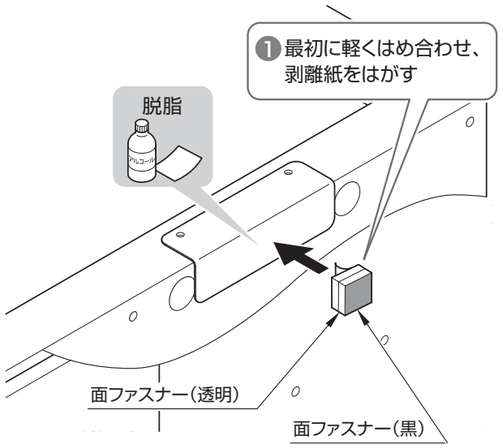
❸ 底目地材の養生フィルムをはがす

注　意

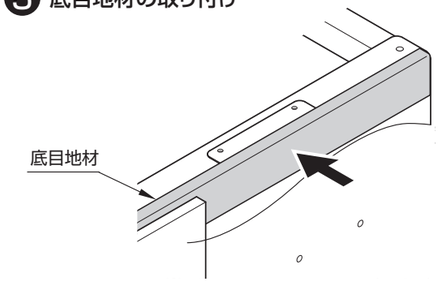
底目地材の端に注意
手袋をして作業を行ってください。

❹ 面ファスナーの取り付け

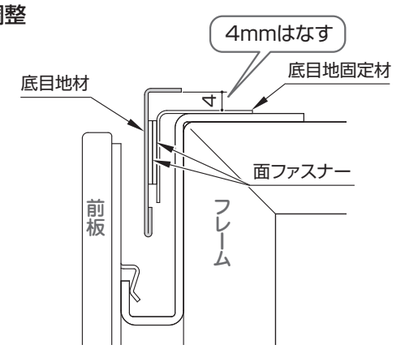
※板金側に透明側がくるように張り付ける。



❺ 底目地材の取り付け



高さ調整



❻ 面ファスナーの確認

面ファスナー(黒)が底目地材の裏面に全て張り付いているか底目地を一度取り外し、確認してください。

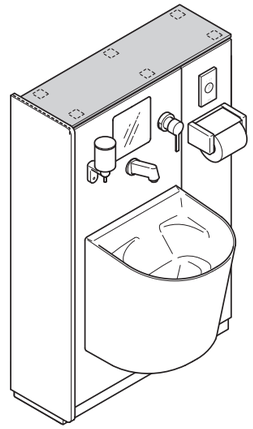
【面ファスナーが底目地固定材側に残っている場合】

❶面ファスナー(黒)を外す

❷底目地固定材側の面ファスナー(透明)の寸法に合わせて、面ファスナー(黒)を底目地材に張り直す

MEMO

3 甲板の取り付け



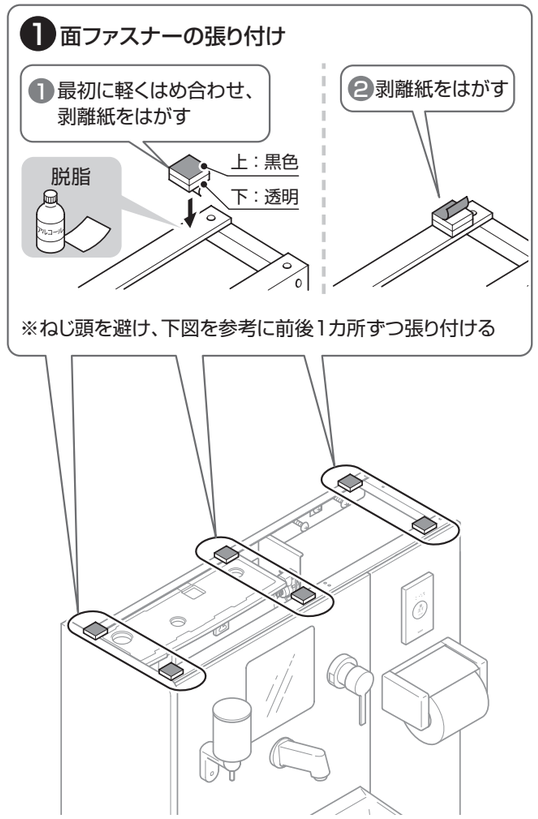
注　意

面取り側を必ず手前にする

注　意

底目地固定材やねじの上に面ファスナーを張らない

❶ 面ファスナーの張り付け

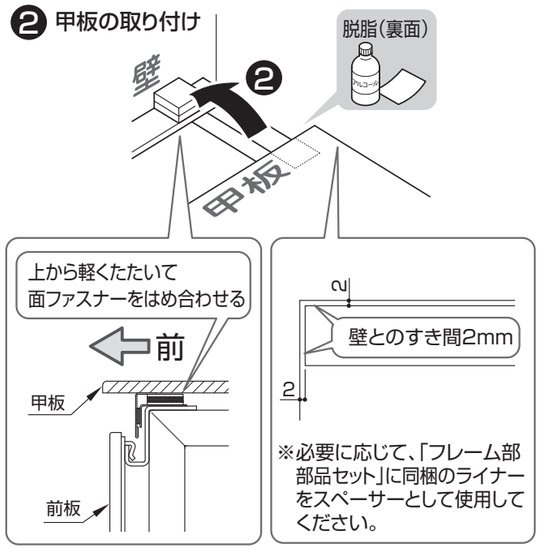


※ねじ頭を避け、下図を参考に前後1カ所ずつ張り付ける

チェック

最初の面ファスナーどうしは強く押し込まず、軽くはめ合わせる

❷ 甲板の取り付け



チェック

甲板を連接する場合、連接する甲板どうしの段差がないことを確認する

❸ 面ファスナーの確認

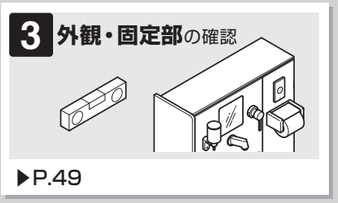
面ファスナー(黒)が甲板の裏面に全て張り付いているか甲板を一度取り外し、確認してください。

【面ファスナーがフレーム側に残っている場合】

❶面ファスナー(黒)を外す

❷フレーム側の面ファスナー(透明)の寸法に合わせて、面ファスナー(黒)を甲板に張り直す

STEP14.試運転・確認

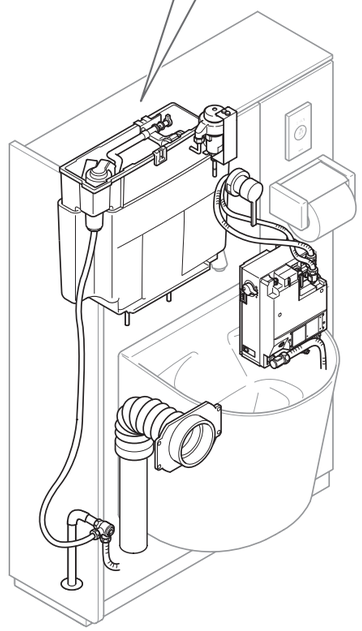


1 水漏れ確認

【汚物流し】

□給水一次側(給水管接続部・止水栓まわり)
□セットタンク接続部
□排水フランジ・排水ジャバラ接続部
□水栓金具(シングルレバー・スパウト)・電気温水器・バキュームブレーカー・サーモスタット接続部

※水漏れが見られる場合は、排水パッキンの取り付けから再施工してください。



2 通水試験

❶ 通水試験

【ポイント】

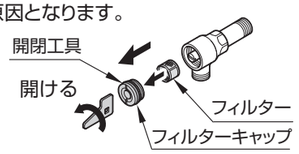
□全ての器具、配管などの連結部が完全に接続されているか
□電気配線に間違いがないか
□電気温水器の試運転は、電気温水器の施工説明書を確認
□通水試験については、建築・設備担当者または、責任者の承認、指示を受け、その立会いのもとで実施
(試験結果を検査表として整理し、立会い者のサインをもらう)
□通水試験時には必ず、2名以上の人員を配備しPS内元バルブ開閉者とトイレパックの水漏れ確認者とに分かれて作業する
□元バルブ以降の配管・器具の外れ、または接合部からの大きな漏れが発見された場合は、ただちに元バルブ開閉者へ合図・連絡を行う
□元バルブ開閉は静かにゆっくりと開閉する
□PS内には他にもいろいろな配管、バルブ類があるため、間違いのないよう確認して開閉する
□止水栓・スパウトのフィルター・網目に詰まった異物はブラシなどで取り除く
(初期通水の場合、配管工事上の異物が混入していることがあるため、各器具部で詰まり、噛みこみが発生し、正しい流量・作業が確保されないことがある)

⚠ 注意

必ず守る

通水試験後に止水栓のフィルター清掃を行う(自動水栓、電気温水器)
フィルターに付着したごみが機器内に入り、水漏れして建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

フィルター清掃時は、いきなりフィルターキャップをゆるめずに、止水栓を閉めてから行う
水が噴き出して、建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。



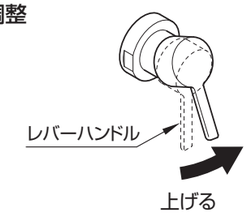
❷ 必要な水圧

最低必要水圧:0.05MPa(流動時)
最高水圧:0.75MPa(静止時)

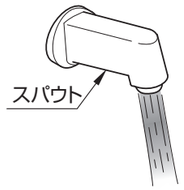
❸ 汚物流し吐水流量の調整

【水出し確認】

□レバーハンドルを上げて、吐水口から水が出るか



□水栓本体、レバーハンドルにがたつきがないか



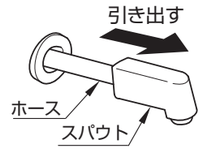
故障ではありません

▶吐水はじめに、一度少量の水が出て一瞬止まり、その後本吐水しはじめる
バキュームブレーカーとスパウトの間のホースに残った水が一度スパウトから排出されるものであり、故障ではありません。

▶水栓の水を止めたあと、スパウトからしばらく水が垂れる
水栓内部の残留水が排出されるものであり、故障ではありません。

【動作確認】

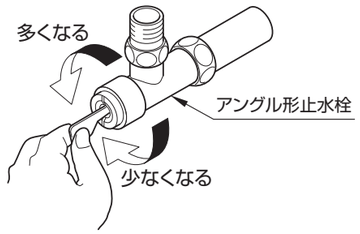
□スパウトが汚物流しボウルの先端付近までスムーズに引き出せるか



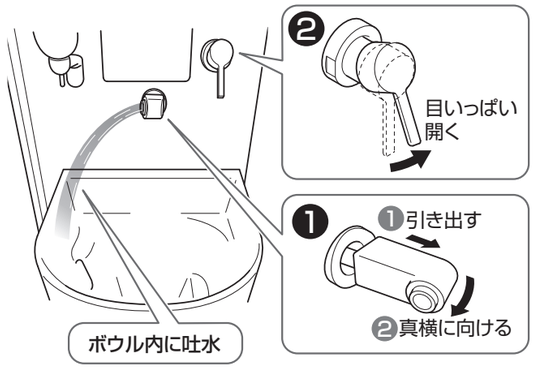
▶引き出せない場合は、ホースがフレーム内で各器具に干渉していないか確認してください。

【吐水流量の調整、および温度の確認】

全閉した状態から調整をはじめてください。



〈吐水流量の調整〉



⚠ 注意

必ず実行

吐水流量の調整は必ず行う
吐水が汚物流しの外に飛び出し、建物や設備などをぬらす財産損害発生の原因となります。

※ハンドルを目いっぱい開いても、吐水が汚物流しのボウル内に納まるように、止水栓で水勢を調整ください。

3 外観・固定部の確認

【外観が問題ないことを確認】

□取り付け忘れの器具がないか
□寸法が間違っていないか(奥行き・高さ・間口寸法)
□水平・垂直が正しくとれているか
□フレーム内部が露出していないか
(前板・フィラー・幅木が正しく取り付けられているか。)

【取付部の固定はゆるんでいないかを確認】

⚠ 警告

必ず守る

各部の固定・連結がゆるんでいないか確認する
器具が落下して使用される方のけがの原因となります

□甲板全体を強く押し付けて取り付ける
▶本施工説明書もしくは手すりの施工説明書参照

4 ラベルの張り付け

使いかたラベルを見やすい場所に張り付けてください。

注　意

ラベルの張り付けは、確実に行う
貼り付けない場合は、確実にお客様にお渡しください。

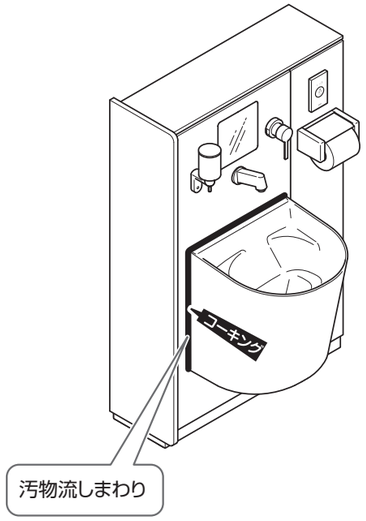
【お引渡し前に】
取扱説明書は必ずお客様にお渡しください。

5 シリコーン系シール剤の塗布

汚物流しの周囲をシリコーンコーキングで仕上げることをおすすめします。
シリコーンコーキングは別途手配です。

注　意

甲板と壁仕上げ面のすき間はシリコーン系シール剤を塗布しない
メンテナンスを行う際、点検口となるため塗布しないでください。



MEMO

工事店様へ

このたびはオストメイト対応トイレパックを施工いただき、ありがとうございました。